小樽緑丘新聞

本紙一部 金六錢
一ケ年購讀料送料共五十錢
印刷所 株式會社太陽舍印刷所
編輯兼發行人 小樽市緑町二ノ三十 森 雄一
印刷人 小樽市稻穂町東六ノ四 尾關十郎
發行所 小樽高等商業學校 編纂部
電話三三〇番 振替小樽三〇一番

新社債制度

Collateral trust bonds

西野嘉一郎

(1)

最近新聞紙の報ずる處によれば、昨年株式組織に改組した株式會社三菱社が今回自社保有の三菱鑛業、三菱重工業、東京海上火災の各株式を擔保として社債三千萬圓を發行し、コラタ－ラル・トラスト・ボンド即ち證券擔保社債のトップを切り、我國社債史上意義深き一ページを劃する事となつた。

抑々我國に於ては從來株式を擔保とする社債は之を認めざる處なりし爲め、昭和十年春日本產業株式會社がその所有の從屬會社株券を擔保として社債の發行を企圖せしも、終に實現するに到らなかつた。

併乍らそれ以來財界はこれが實現の要望頓に加へ、終に第七十三議會は擔保附社債信託法の改正により株式質を社債の擔保に加へ、この株式の種類は同法に基く社債擔保審査會に諮問した上、大藏大臣が認可する處の法律が昭和十三年五月九日附を以て公布されたのである。この時にあたり米國に發達したコラタ－ラル・トラスト・ボンドの性質並にその運用に就いて述べ、併せてこの新社債制度が企業財政上如何に重要なる役割を演ずるかを考察しやうと思ふ。

(2)

コラタ－ラル・トラスト・ボンドとは、有價證券（米國に於ては勿論株券でも社債でも或はその兩方でもよいのであるが我國に於て今回認められたものは株式質に限られること）擔保社債である。普通の擔保附社債の如く有形的財產を擔保に供するものでなく、これ等の有形的財產を代表する證券を擔保に供するものであり、從つて間接的の擔保である。かくの如くコラタ－ラル・トラスト・ボンドの擔保として提供される有價證券は先づ信託會社に信託し信託會社の處分に託するのである。而していざといふ場合には處分し、その處分して得た資金を以て社債元利の辨濟に充てるといふのである。

この社債制度の起源は何時であるかは明瞭ではないが、リプレー、ミード兩氏によれば最初の利用は一八七九年ユニオン太平洋鐵道會社の發行せる六分利附七百万弗のコラタ－ラル・トラスト・ボンドであるとの事である。同社は巨額の負債があるためその債權者を保護する目的を以て、一八七三年の議會は法律を以て將來同社の鐵道財團を擔保として負債をなす事を禁止した。然るに同社は、攻略的位置を保持するためにノース・ウエスト迄鐵道を擴張する政策を有してゐた。從つてその擴張資金の必要を生じたが、その子會社が社債を發行すれば不成功に終る事が明瞭である。さりとてその子會社の統制權を失ふ事を欲しない。その結果、自己所有の子會社の證券類を一括擔保として社債を發行する事によつて、この鐵道建設資金を獲得したのである。併しこれは前述の如く特殊なる事情のために財團擔保が出來ない時の假定手段として除外的に發行せられたに過ぎないので、コラタ－ラル・トラスト・ボンドといふ一つの發行樣式を持つて社債として市場に現はれたのは一八八七年リチモンド、ウエスト、ポイント、ターミナル鐵道會社のコラタ－ル、トラスト、ボンドである。ところが同社のコラタ－ル・トラスト・ボンドの成功は米國の起債界に一大刺戟を與へ一八九四年にはこの發行方法は一つの新しい金融樣式として漸く重要視される事となつた。

その發達の過程を辿つてみると、最初は主に鐵道會社によつて利用せられた。リプレー教授の調査によると一九一三年末に於ける米國鐵道會社總長期借入金額中コラタ－ラル・トラスト・ボンドは、米國鐵道業長期負債の各種形態の中、單純なる普通擔保負債に次いで第二位にあり總長期負債の十分の一に相當し非常に重要なる役割を演じつゝある。かくの如く鐵道會社に於てはこの制度は或る場合には社債に市場性を與へるため、又或る場合には擴張資金調達のため又或る場合には同業會社合併のために利用せられた。

その後一八九七年產業界に於ても或る程度にこの方法が採用せられたが、これは無論大した事はなかつた。これが特に發達したのは米國の所謂公益事業持株會社が普及して來た九〇六年後の事に屬する。この制度が持株會社に利用せられるやうになつてから財政的機構が非常に複雜になり、或持株會社のコラタ－ル・トラスト・ボンドが他の持株會社のコラタ－ル・トラスト・ボンドに對する擔保となるやうになつた。かくしてリーフマン教授の所謂『證券代位』證券代位とは自己の株式及び社債の賣出によつて廣く投資家から資金を募集し、この資金を以て他會社の證券を取得することを云ふの一手段となつたのである。

(3)

コラタ－ラル・トラスト・ボンドは種々なる目的のために利用せられるがその主なるものは次の通りである。

第一、市場性に乏しき小會社の株式又は社債を纏めて、之を擔保として資金を調達する場合で、之が本來の意味であり樣式でもある。

第二、法律上の障害を除去せんが爲に用ひられる事もある。例へば前述せるユニオン太平洋鐵道會社の如き場合がこれである。或は術後取得財產條項の適用を免れんがために、新に子會社を設立した場合に此等の子會社は比較的小規模であるから、その發行する證券の市場性が乏しい、よつて新會社が此等の子會社の證券を自ら引受け、他の證券を一括してコラタ－ラル、トラスト、ボンドを發行する。

第三、鐵道會社では屢々他鐵道の統制權獲得のために必要なる資金を調達する手段として買收せる株式を擔保としてコラタ－ラル・トラスト・ボンドを發行する事がある。

最近の一例として持株會社アノゲーニーカンパニーがその代表的なもので、同社を通じてファン、スウエリンゲン系が米國に於ける大鐵道網を極めて少額の資金を以て手中に集中する事が出來たのはこのコラタ－ラルトラスト・ボンドの利用の結果である。

(4)

コラタ－ラル・トラスト・ボンドの擔保には大體次の三種がある。

(1) 擔保となる證券が社債發行會社と關係なく獨立した市場性を有して居る證券である。これが最も理想の證券擔保でそれが一流社債であれば更に良い。

(2) 從屬會社の發行せる株式又は社債或は双方を擔保とせる場合、之は普通に行はれる今回の株式會社三菱社の場合はこの例である。

(3) コラタ－ラル・トラスト・ボンドの發行會社自身の長期社債を擔保として受託者に引渡すことがある。これは短期社債に利用せられるのであるが何等擔保として獨立性の價値を有ない。

(5)

以上は米國に於ける大體の實情であるが今回我國に施行された株式擔保社債は、米國に於けるこの制度の弊害を除去するため、上述せる如くこの種社債の發行には社債擔保審査委員會の認可を受けることを要する事に規定されてゐる。而して五月二十一日に開催された第一回の審査委員會は株式質認可の基準に就いて協議した結果

一、擔保に提供する株式に就いては、或一定額以上の資本金を持つ會社の株式で然も配當及び時價の變動等過去の實績に照して確實性のあるものたる事新株と雖も一流會社のものであれば認可し得ること評價價額は諸般の事情を參酌して中庸を取ること。

一、株式質の適用は別段持株會社に限定はされてゐないが社債發行社の提供する株式は同資本系統のものに限定すること。

一、株式質の場合は特に受託會社の債權者に對する責任は重大となるに鑑み、受託會社は善良なる管理者の注意をもつて善處すること、例へば株式質が評價額以下に値下りした場合には遲滯なく增擔保を請求し、又株式質として既に擔保の附せられてゐる當該會社が更に借入金等をなす際は管理者としての注意を怠らず善處すること。

等の內規を決定した。

その結果所謂コラタ－ラル・トラスト・ボンドの利用範圍も相當縮少された如くであるが、併し我國に於ても漸く持株會社制度が出現しその發達の緒についた時、このコラタ－ラル・トラスト・ボンド制度の採用は大なる意義あるものと謂はなければならない。

米國に於ける持株會社の完全なる發達は、このコラタ－ラル・トラスト・ボンド制度の利用によつて初めて可能となつたのである。若しこの社債制度の利用がなかりせば恐らく米國に於ても今日あるが如き著しき持株會社の發達がかくも迅速に行はれなかつたであらう。

吾々は最後に我國に於ける株式擔保社債制度の完全なる發達によつて、近代株式會社の機能を十分に發揮し得る日の近からん事をこひ希ふものである。

文藝の位置

伊藤整

自由主義がさまざまの修正を加へられる時代の中では、自由主義と一緒に發達して來た近代文藝が色あせて見えるのはやむを得ない。時代の動きに何よりも鋭敏である文藝はやがて、激しい變貌をして政治への立ち遲れをとり戻しそれに先んずるやうになるだらう。さういふ期待が文學者一般にも持たされてゐるし、社會が文藝に對して持つ思考のなかにも明かに現はれてゐる。

しかし、どう變るか、どの程度まで新らしいものになるか、といふことはむづかしい豫測である。多くの人はあまり大きなものをこの變化に、望んだり、怖れたりしながら豫期してゐるかたむきがある。しかし、文藝には容易に人々が考へるよりも多くの內的な生理があつて、今までに見たこともないやうなものに突然變り得るものでない。その點で思ひすごしが多いやうである。その一つとして、この頃ある新聞の論說にかういふのがあつた。青年子女に惡い影響を與へること文藝作品より大なるはない。文藝家は好んで人間の惡德類廢の面のみを誇張して描き、また自ら破倫の行爲をしてそれを報告し、社會倫理を破壞することをもつて新しい意義のある行爲だとしたがる。それが青年子女に與へる影響は實に大きく、ある種の反國家思想を宣傳する思想評論家にも劣らぬ實害を世に流す。だからかういふ非常の際には、嚴重に彼等をとり締るべきである。若し倫理の規範を破るのが文藝のやむを得ない道であるならば、非常時にあたつてゐる日本のやうな國家では文藝なくして進むのが本當ではないか。云々。かういふことが書かれてあつた。

これだけのことを讀むと、この論說はまことに當然のやうに見える。そしてこの種の意見は、社會の多くの敎育者父兄の抱いてゐる處である。それを公に口にするのをはばかつてゐるだけで、文藝作品に對してかういふ考を持つてゐる人は實に多いと思ふ。ただ、うかつにそれを口にしては非常識として笑はれはしないか、藝術といふものを理解しない無教育な人間と思はれはしないかと考へて口をつぐむ人が大部分であるだらう。

また文藝家の方でも、その種の世論、あるときはかくれた社會の意見に對して、自ら肩身せまく感じてゐる。さう世の人が思ふのも尤もだ、と考へてゐる。變なことだが、それもまた事實である。だからこの新聞論說に驚いた一人の作家は、次のやうに辯明した。文學者は世間で考へてゐるやうな不道德なものではない。自分の知人の作家を色々思ひ浮べて見ても、そのどれもが律氣きはまる人間であり他の社會の人たちに較べると遙かに善良正直な人たちばかりである。また文藝作品で人間の惡い面、暗い面を描くことはあるが眞面目な作家はみな、惡の面をば、藥劑を扱ふ藥劑師のやうに注意して扱つてゐる。また今日純文藝作品が人に與へる影響は甚だ微弱なもので新聞記事よりも遙かに劣るであらう。

これがその辯明の大要である。だがこの辯明者は、根本的な反對をその論說に對してなすことができずに、それを一種の正論ではあるが、間違つてゐる所があると訂正してゐるだけである。一種の正論として文學者自らがかういふ文學抹殺論を扱ふやうなところに文學者の善良さがあると言へば、それでもちよつと面白い議論になるけれども、それではまるで文藝作品を作ることは元來罪惡的なことなのだが、當人が心がけ善良であるから特にお目こぼしにあづかつて云々といふやうな話になる。困つたことである。

かういふ風に考へると、これからの文藝は、人間の暗い面や惡德には絕對に目をつぶつて人間の善良さ美しさばかりを描くやうになるであらう。そしてそれが正しい文藝の道だといふ風に思はれるだらう。そして文藝家の間にもさういふ考方があり健康な文學といふものが口にされてゐる。これでまあ一應の結論になつてゐる。

しかし、前に掲げた新聞の論說にはもつと根本的な間違ひがあるといふのは、さういふ世人の文藝作品を罪惡視する考には間違ひがある。文藝は今まで不健康であつたが、これから心を入れかへて健康になるといふことはないので元來文藝といふのは健康なものである。文藝を不健康だと言ふのは醫術が不健康だと言ふのにやや似てゐる。人間の正しい精神狀態を損し、それの碍げになる病害をとりのぞかうとするのが文藝の根本の目的である。これは第一級の文藝作品に接してゐる人は、みな理屈ぬきに氣がついてゐることで、立派な藝術作品にして、人に善をもとめる願ひを與へぬものはない。最もいけないのは娛樂的な文藝であつて、そこでは讀者の精神を懶惰にし、安易なものにすることしかない。

文藝の究極目的は善の探求である。しかし、そのためには、惡の抉剔が必要なのでやつて、若し文藝作品にさういふ部分があるとしてもやむを得ない。かういふ善のための惡の抉剔に害があるであらうか。

別な面からこのことを多少功利的に考へて見よう。文藝創作上で作家が習練する第一のことは、觀察の正確さと想像の立派さといふ二點である。一流の文藝作品はこの二つの心的な力を人に與へることでは、他のどのやうな藝術にもまさつてゐる。音樂とか繪畫といふやうな純粹化された働きでなく、生活そのものについての觀察力、想像力は、文藝で正しく養はれれば他のどのやうな仕事にも役立つであらう。日本人が支那の新領土の經營をする時になると、日本人にはイマジネイションが足りないから、駄目だらう、とこの事變になつてから西洋人が言つた。これは暗示するところの多いことだ。また日本人は具體的な機械工作の美事な才能を持つてはゐるが、原理的な思索においては缺けてゐるといふ一般的な意見にも聽くべきものがあるだらう。かういふ能力が次第に日本民族に發達しつゝあることもまた觀取される。そして現象の正確な觀察と豐かな想像力とは決して分裂して發達するものではない。若し文藝を厭つて、人間性にある諸々面に目をつぶるやうになつたとき、果して現在の日本に最も必要な民族性が健全に發達し續けるであらうか。人間心理の正確な判斷を持てずに支配したり政治をしたりすることは出來ないし、また人間性を現實的に把握せずに理論的な土臺を組み上げることは空中樓閣を築くやうに空しいことだらう。

今日文藝が香ばしからぬ批判を被るのは、主として功利的な面からであるが、多分科學的な推理性を助長するのも文藝の一德にちがひないし、支配的經營的な才能を養ふのも文藝の德にちがひない。正確に見正確に判斷し、豐かに想像することは、文藝が人に與へる、最も大きな力であるし、それがまた大きな民族を育てることになるのにちがひない。

全體主義への發展

—統制經濟の根據—

横川義雄

一

最近擡頭して來た哲學理論の一つに全體主義を擧げる事は誰人も承認する處であらう。現下統制經濟に於けるあらゆる現象も、究極の處、全體主義理論の發展なる事に意義を有するのである。こゝに所謂全體主義とは如何なる基礎概念を有するのであらうか、本質は何か、部分たる個人が全體たる社會に先行すると解する個人主義に對し、全體たる社會は部分たる個人に先行するのが全體主義の概念である「全體が部分に先行する」即ち全體部分の相互的聯關に對する考へ方である。從つて、全體主義によれば、第一義的に或は始源的に存在するところのものはすべて全體であるとする。部分は全體の肢體としてのみ存在する。故に第二義的のものである全體に制約せられるのであるから絕體的のものではない。然し全體は部分の外に別個に存在するものではない。部分は全體の現はれとして見る。全體は部分の全體的現はれとして見る。決して單なる部分の無秩序な集合ではない。全體は部分に論理的に先行するのである。こゝに言ふ「先行」とは時間的先行でなく論理的先行であり、全體なくしては部分は意味をなさぬ點に於ての先行である。この全體部分の關係は全體性の原理から來てゐると思ふ。吾人の身體に於ても、一文一語の關係、一聯の音樂に於ても、我國家族制度に於ても全體性原理によつて說明し得るのである。

社會の本質から考察して見るに、人間の集團の社會は本質的に全體である。個人は部分である。もし社會を第二義的存在とするならば、個人をして始源的存在と見るのである個人主義の考へ方はかく言ふのである。全體主義から言ふならば、社會は第一義的存在であり個人はその分肢である社會は個人と個人の精神的結合として活動するものであり第一義的存在は個人の精神中に現はれる。この立場に立ちて止揚せられた處に現實性を見得るのであり、それ以前は潜勢力として存在して居るのである。從つて全體主義は一つは現實性との聯關に於て見なければならぬと同時に常に發展段階に於てこの理論を說明しなければならぬ。

二

全體の體とは、その屬性としての相、その働きとしての用を綜合統一されたものである全體の立場は「あるべき」でもない「ある」でもないそれらを止揚した「なる」の世界であると言はれてゐる。この全體主義と發展との聯關について見るに創造的發展の根源は發展の發端に非ずして終極なりとする。言はゞ前者を含んだ發展の靜止的全體系が眞の根源である。これが體系の原理としての排中の原理の根底に横はるのが全體性の原理である。全體は部分を含み部分は全體に含まれると言ふ事である。例へば、文章について見るに、文と語との關係に於て、文章を構成してゐる要素的語は全體的立場に立つて初めて生命的なものとなるも、これを靜止的に分離孤立せしめると形式的唯存在自身となる。過去に於て文を唯要素的に還元して來たが現代國語教育に於ては、更に一步全體より關係自體に關係の項が含まるゝ論理的研究が進み更に文と語の性格對立を一致せしめた「辨證法的對立」立場を再び現實存在に於て把握する傾向が現れて來た。この點に關しては、後日詳記する事として、兎に角全體部分の關係は發展過程に於て本質的に見る事である。引かれた線と引く運動とは全然別個であり、「引く運動」流れる時に於てこの關係が成立するのである。發展は常に始めの狀態と終りの狀態とを不可分關係として含むものである。

始めの段階そのものに於ても全體部分の關係がある。この發展の始めの狀態に潛在的多樣が存在するところに、含み含まるゝ全體部分の關係が成立する。この潛在的要素を後日終りの狀態に實現せんとするのである。換言すれば、發展の始めの段階は常に終りの段階に含まれてゐる。而して發展の終りの段階はやがて發展の全體となる。生きた本質の現象把握は凡て體驗から推して全體部分の現象を動的聯關的存在として見るところに、眞の現實性把握が可能である。現實性は全體的立場から了解出來るのである。かゝる全體主義が統制經濟の根據として如何に發展してゐるかを研討して見やう。

三

近來經濟學理論は、動態理論として、發展の理論、現實性把握による研究が盛んに行はれてゐる。特にその傾向は獨占價格の形成が經濟現象に影響を與へてからである。統制經濟はその形態を受けて現れたとも考へられる。即ち自由競爭時代の生產費プラス正常利潤を中心とした價格が、獨占體系となり一方的意思により支配せられる事情からして統制經濟が擡頭したのである。而して統制の態樣は部分的過去の統制も必然的に全體的統制となつて獨占體から統制的團體へ發展して來たのである。この發展段階に於ける「流れ」を體驗的に直觀するところに全體主義に立脚した論據があるのである。一つの社會の經濟目的を達成するために、各自由に活動して來た經濟單位を相互聯關的結合たらしめて而も脈絡のみでなく、それは全體を目的とする現れとする處に價値があるのである。即ち統制經濟は經濟目的達成せんため、その分肢たる經濟單位に干涉して管理するのである。國家が各經濟單位に公共の利益、國家唯一の目的達成のために統制せんとするのである。この場合に各經濟單位は各經濟單位としての相互作用を規律しつゝそれが全體への行爲なる事により一段と高次な形象へ進み而も各部分たる經濟單位が全體に含まれるのである。企業の國家統制は生產組織の統制、或は價格の公定となつて現れるであらう。何れにしても、國家は國民を構成分子としての社會的存在であるために、全體部分の理論的關係に於て、公益は私益に先行する——國權の發動——によつて眞の統制が行はれ、そこに國家統制は一つの社會的經濟的秩序を立派に保ち得るのである全體的利益は戰時經濟に於て國家唯一の目的として發展したものである。

經濟統制は大別して次の二つの方面より見る事が出來る。即ち物の統制と貨幣價値の統制、換言すれば、財貨側の統制と通貨側の統制である。物資需給調整、物資總動員計畫に於てその兩面を見る事が出來る。

物資動員として、軍需增加、民需制限、輸出促進、價格對策として爲替維持、物價抑制（價格公定、配給統制）資金動員として資金調整、公債消化、其他勞働調整等、いづれも全體としての所期の效果達成の爲、分離し出來ぬ、相互關係を有するものである。企業形態に於ても、國策會社、國營公營の發達又然り、所謂かくの如く純粹なる統制が行はれる根據は唯に、全體主義の立場に於ける國家たる經濟社會と、その分肢たる各經濟單位の關係、換言すれば全體と部分の關係が、特に全體より部分に對する强き監督統制の形態に於て現れてゐる事を意識しなければならぬと同時に、現實の經濟現象を把握するに當つては、初めの段階に於て既に終りの段階（全體）を豫想しつゝ全體への發展を期し逆に發展の理により再び現實々存在として初めの段階を見なければならぬ。要するに國家經濟統制は、國家國民の全體的利益の包合せられた形に於て實現せられてゐるのである。

—一九三八・七・六—

新刊紹介

金子泰藏著

『外國貿易便覽』

—貿易業者の虎の卷—

大谷敏治

我が國がその有する國家の總力をあげて東洋永遠の平和のために聖戰に從ふ現在ほど外國貿易が吾が國民經濟にもつ重要性を、まざまざと悟らしめた時はないであらう。日滿支經濟一體の實現擴大せられた遠い將來はいざ知らず、長期建設の途なほ遙かなる現狀に於いては國內生產力の擴充のためにも先づ第一に、外國資材を輸入せねばならないし之に加へて軍需資材の輸入また恐らく想像以上のものであらうと察せられる。

この故に國際收支を巨大なものとしてバランスせしめる貿易政策が、現下の戰時經濟政策の根幹として採られねばならない。之れを具體的に云へば、巨大な輸入を認容しつゝなほ一志二片の圓價を維持せねばならない。從つて一旦は輸入許可制と爲替管理を中心とし、金產政策を支柱として極力國際收支の均衡をはかつたものゝ軍需資材の輸入は、戰局の進展とともに巨額となり、一方原料輸入の抑制が他の諸事情と絡んで本年五月末迄の輸出總額から滿洲、關東州、北支中支向を除外すると僅かに五億八千万圓、前年同期に比し三割五分の激減に當る。かくては、爲替水準の維持は難く、軍需資材の輸入も困難とならざるをえない。之れ即ち最近戰時貿易政策に一大轉換が行はれ、一方に極力消費節約による國內物價の低落をはかりつゝ他方に、輸出產業の原料輸入をはかり輸出輸入のリンク制を設けて積極的に輸出振興が講ぜられつゝある理由である。いはゞ外國貿易は吾が國にとつては、世界的使命を果たすためにも必須のものたることが今次の事變によつて明らかとされたわけである。

かゝる事情のもとでは、吾が在外支拂資金を作るものは何でも宜しい、輸出を增進する方策はことごとく貴重である。そのなかで、然しながら、最も根本的なものは、貿易業者の貿易に關する智識の涵養、熟練の增進である。周知の通り吾が國輸出の根幹は纖維製品及び謂ゆる雜貨輸出にあつて、低價格がその基本動力であつた。從つて貿易の手續に關する習ひ覺えた智識と、もつて生れた度胸一つで、メイド・イン・ジャパンの旗を世界の隅々に揭げたのである。然かし、時艱にして初めて事は根本的な理解と見識の上に立たねばならぬことを知る。苦情に直面して、業者が幾千里の海外に在るをなげき、朝に夕に發表さるる貿易關係法令に面接して、適歸する所を失ふのが實狀である。

茲に紹介する書『外國貿易便覽』は、かゝる貿易國難の時代に正に、萬全の指針たるものであらう。

その第一篇『輸出手續概要』は坊間類書と異るところ多くはないが、取引條件協定書の實例採算の實例など有益な例多く、『輸出代金回收』の章に示した無爲替許可と爲替報告の例は輸出補償制度の說明とともに貴重である。

第二篇『重要輸出事務各說』は、本書の中心であらう。第一章荷爲替信用狀に於いて、讀者は信用狀の意義性質や吾が國通行の信用狀について知る外にPayment on Receipt Credit, RevolvingCredit, ExtendedCredit, OpenCredit その他各種のCreditについて悟りそして米國に於ける信用狀統一運動を知つてこの世界法の實現の過程を夢みるであらう。荷造包裝は商品輸出の一部である。年額廿五億の輸出中假に五%が荷造費用として一億七千五百万圓、之れを一%節約することは、千七百五十万圓の受取勘定增加又は價格に於ける競爭力の增加である。荷造を原因とする苦情の存在も又た決して少くはない。荷造研究は此の意味で一つの輸出振興策である、讀者は夫れを本篇第三章に探るであらう。その他、外國電信電話海上保險運送の實狀等當然に說き及んであるが、就中珍重するに足るのは第三篇參考資料の集成である。經濟事情の變轉現在の如く烈しいとき、文字通り朝に夕に發せらるゝ貿易關係法令や、貿易組合法規を蒐集することは、餘程の丹念さがないと難かしい。本書は夫れを吾々に與へてくれる、そして更にまた、度量衡、貨幣の一覽から弗及び磅の換算表（三十二分の一刻み）外國郵便規則迄附いて居る。おまけに雛型一覽表等附錄の挿入されたるもの七十葉、貿易業者學生の机上において正に文字通り、便覽たるに恥ぢない。發行は本邦外國文物の輸入元東都丸善書店、四六判四二二頁クロス張りの裝幀も柔かで携帶に便であり定價は僅かに二圓八十錢かゝる手頃な必携をものせられた著者金子泰藏氏に敬意を表しさて、之れを活用する通信文は有朋堂版苦米地英俊著『國際貿易活法』を見よと爾云ふ。

宮田喜代藏著
貨幣論
定價 壹圓參拾錢
菊判 一七〇頁

目次
第一編 名目學說の發展
第一章 貨幣論上における金屬說と名目說
第二章 クナップの貨幣國定學說
第三章 ベンディックセンの指圖表券學說
第四章 エルスターの參加表券學說
第五章 リーフマンの計算單位學說
第二編 貨幣理論
第一章 貨幣の經濟的理論
第二章 貨幣の綜合價値
第三章 客觀的利用價値
第四章 爲替相場
附錄
一、貨幣法
二、兌換銀行券條例
三、外國爲替管理法
四、一般物價變動の國民所得分配に及ぼす影響（圖表）
發行所 平野書店
販賣店 丸善株式會社

日本封建社會意識論
櫻井庄太郎著
日本思想史、日本道德史の研究は文化科學の諸分野の中で最も遲れてゐるものの一つである。その主たる原因は、精神事象を觀念的な態度で、個人として集團から遊離させて論ずる點にある。然るに本書は思想史、道德史を實社會學の方法に據つて、集團事象として取扱つた唯一のものである。
價 一・八〇
送 ・一四
菊判 二五〇

村落社會の研究法
村落社會學會編
農村社會研究法論……鈴木榮太郎
農村社會學の諸學說と批判……井森陸平
日本農村社會學の發展史……池田善長
農村社會と人口問題……神谷慶治
社會集團の累積としての村落……米林富男
村落社會に於ける部落と家……早川孝太郎
農村更生運動と地域計畫……綿織英夫
價 一・五〇
送 ・一四
菊判 二五〇

世界史上の支那
煙山專太郎著
支那の文化及び歷史の特質を、抗日政策、國際關係、今次事變の重大なる意義、殊にわが大陸政策の前途等を、西歐の歷史と比較考究しながら明らかにしたものが本書である。かくの如き廣範なる世界史の立場から、現代支那の歷史的地位を明らかにせるは、世界史に關する多年の蘊蓄と造詣とを有する煙山先生にして初めて企て得る所である。
價 一・五〇
送 ・一四
四六判 三〇〇

北支經濟開發の根本問題
國際經濟學會編
北支經濟開發の指導原理……楢崎敏雄
北支農村經濟の諸課題……崎村茂樹
北支の工業開發と立地問題……川西正鑑
北支經濟開發と企業形態……佐々木吉郎
北支に於ける貨幣金融問題……金原賢之助
價 一・五〇
送 ・一四
菊判 二〇〇

東京神田區駿河臺三の六
振替東京 七三一一八
電話神田 三三七一・三二八九
刀江書院

MARUZEN
日本のインキを代表する
アテナインキ
あうむでさへ覺へた
“バンザイ”
そして
“アテナ”
ATHENA
使ふ程書きよくなる
アテナ萬年筆
丸善インキ
丸善スタンプインキ
丸善チエックインキ
丸善製圖用インキ
丸善墨汁
丸善朱墨汁
最寄りの文具店でお求め下さい

論說

集團勤勞を終りて

曩に文部省直轄學校長會議に於て決定され、本校に於ても鋭意その具體案を計畫中の學生集團勤勞奉仕は去る七月十三日より六日間に亘りその第一期分が實施された。

此の作業期間中第一に我々に感ぜられた事は、久しく世の識者間に稱へられて居た現代學生に對する腐敗、墮落の批難が根底より覆へされ、世人が新なる眼を以て學生を認識し出したと云ふ事である。我々が最近に於ける學生の動向を觀察する時、果して彼等の總てが學生としての本分を盡して居たかどうかと云ふ事については明言し得ないものがある。作併かゝる學生の一般的傾向は時局の正しい認識を缺き、學生の立場を忘却せる結果生ずるに至つたのであるとの謬見に對しては今回の集團勤勞が充分に釋明して呉れるものと思ふ。振り上げる鍬、打ち下す鶴嘴、全員嬉々として與へられた仕事に專心從事する學生を見よ。これが「小樽のゴミ」と呼ばれる高商生の眞の姿なのである。

現代學生の時局に對する認識は決して誤れるものでも、不完全淺薄なるものでもない。學生と雖も國民である。一度立ち上れば如何に困難な事でも、國家の爲とあらば甘んじてやり遂げるだけの意志と實行力を持つて居ると云ふ事が今回の集團勤勞に於て如實に物語られて居る。併しこれは國民の一員としての學生についてゞあつて個人としての學生には未だ、自重自肅さるべき點が少くない。

次に感ぜられた事は學生の自由、學生の特權についての觀念の強化である。ある學生が筆者に告げて云ふ、「我々は今回の集團勤勞に於て勞働の神聖、勞働の喜びと云ふ事を感ずると共に何故勞働者が馬鹿になるかと云ふ事を知つた。」と、理想を論じ現實を顧みず、條件をぬき去つて物事を考へるは學生の自由であり、特權である。此の思考の方法が今回の集團勤勞に於て現實と衝突し、我々の理想が現實に打ち消される惱みが此の人をしてかゝる言を吐かしたものであると思ふ。我々が一度學園を出て社會人となる時、我々を待ち受けてるものは冷たい現實である。せめて學園內にある時だけでも理想の炎を持つて生きて行くべきではないか。

第三に感ぜられた事は此の期間中全然勉強出來なかつた事である。最初の事であるから馴れぬ爲でもあらうが今後斯くの如き催しは年中行事となる事だらうから充分配慮すべき事だらう。古語に曰く「亂に居て治を忘れず、治に居て亂を忘れず」と、ある人もぢつて曰く「士に居て書を忘れず、書に居て士を忘れず」と。我々學生の集團勤勞は此の言葉をモットーとして行はれなければならない。如何に短時日の間であれ、學問と云ふ事は我々から取去らるべきものではない。それに今回は可成りの休息時間が與へられて居つたにも拘らず、徒らにこれらの時間を浪費してしまつた學生の如何に多數なる事か。今回の集團勤勞に於て我々の體得した德目は枚擧に暇ない程多い。併し學問的方面に於ては殆ど無と云つてもよからう。——集團勤勞の目的は平素の學業に於て體得したる知識を實踐する事にあるのだから併し止むを得ない事であるが——しその後には二ヶ月に近い夏休みが待つて居る。生涯學生々活のみに與へられたる全く自由な時間である。我々學生は集團勤勞によりかち得た規律生活をそのまゝ續け例年の休暇に比べより一層學問と親しむべきである。

—全國に冠たり—

我が銃後集團勤勞 學徒の意氣を示して

≡前期成功裡に終る≡

汗と力の一週間　苦しかつたが愉快な朗らかな一週間、第一線將士の勞苦を偲びつゝ七月の炎天下に行はれたる本校第一期集團勤勞は多大の實踐を收め七月十九日無事終了した。眞夏の光線は赤銅色の肌に映え、鍬をふり上げモッコをかつぐ全教官、全學生の顔も、手も、足も、汗でびつしよりだ。校庭の美化、シャンツェ下小グランドの擴張、公園の開拓等の事業が我々學生の手によつてなされたのである。

試驗疲れも數日の休養によりすつかり回復し、一年及び旅行各種遠征部員を除く第一期勞働奉仕者は十三日午後六時夫々指定の道場へ入つた。久方振りに家に歸りて喜ぶ者、又初めて見る寮の樣子に見入るもの、六時まであの地獄坂にふとんを背負つた學生がひつきりなしに續いた。七時人員點檢、全員張切つて一名の遲刻者も無い。蚊に攻められながら第一夜を過ごす。

起床の鐘の音もまたず起き出す者も有る。爽かな山の朝さうである。朝の行事を終り勇躍第一日の作業に就く。公園を訪れる散步士が昨日に變る今日の高商生の姿に驚きの目を輝かして通る。此の日一日中公園各處で各道場生がグランドの擴張に又開拓工事に勵む。

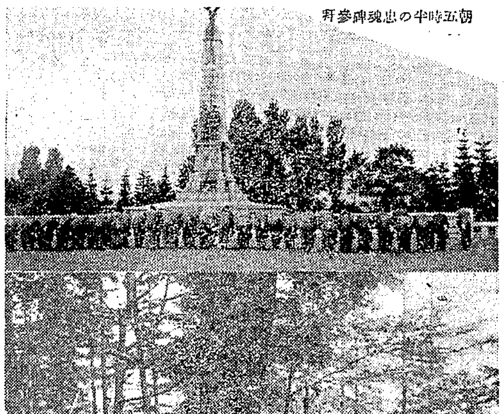
第二日、昨日の仕事で肩をはらしたり、手に豆を出かしたりでも全員緊張して豫定の行事を行ふ。此日の第一道場は校庭の芝の植付け殘りを全員シャンツェ下グランドの擴張工事を行ふ遙か彼方からの祭に醉ふ町を眺め花火の音をきゝつゝ岩碎に從事する者、又慣れぬ腰つきでモッコをかつぐ者、各員の額は暮色に滿ちて居る。午後は住吉神社祭典のため休み。午後五時の門限迄久方振に町の氣分を味はふ。

第三日、昨日の仕事を續行すもうすつかり慣れ切つた樣子。崩し落した無數の石もベルトコンベアにてたちまち片隅に積上げる。動かし得ぬと思つた大石も教官生徒の團結により、掛聲も勇ましく動き出す。すばらしく愉快だ。モッコをかつぎ鶴嘴をふるふ教官にまけじと全員努力す。落日近き頭美しくなつた校庭を通り各道場に歸る。今宵の步はどうか記者には想像も出來ない。

第四日、各道場第一日目の仕事を續行す。もう仕事の要領を呑み込み仲々堂に入つた働き振りだ。皆すばらしくいゝ色になつてゐる。仕事はどん〳〵進行する。將に能率百％

第五日、もう今日が最後だと連日の奮鬪のため疲れた體を鞭撻しつゝ働く。トロ押しにすつかり愉快になつてゐる者も見える。時折り廻つて來る藥の携帶員も、各人の注意により全く暇な樣子、寄こばしかつた。夜七時よりしるこにて離散會を行ふ。

第六日、住吉神社に詣で皇軍將士の武運長久を祈る。人通りの少い朝の街を日やけした健康そのものゝ若人の一列は、とても心づよい。九時半迄昨日の仕事を續行す。十時半一同校庭に集合卜部教授の訓示ありて解散す互に己が收穫を語りながら再びふとんを背負つてあの坂を下つて行つた。後はもう長い休みだ。


朝五時半の忠魂碑參拜

作業中—公園裏の熊笹刈り

一日一日の生活を見ると次の通りである。

午前四時半、起床の合圖と共に全員一齊に飛び起き掃除洗面を終へ五時朝霧立ちこめる戶外に整列、點呼。當番の號禮で遙に皇居を拜し、聖壽の無窮を祈り奉る。ラヂオ體操、掛聲がまわりの山々にこだまする。〝早寢、早起、ラヂオ體操〟標語通りの生活、五時三十分、隊伍堂々未だ起きやらぬ市中を行進、忠魂碑に至り英靈の前に額づく。

六時半、待望の朝食、大きな丼で二杯、三杯は忽ちだ。

七時半、鍬、スコップ、モッコ、武裝も凜々しく作業場に向け出發。

八時、作業開始、九時半の休憩時迄一時間半、十時より再び作業、十一時過ぎる頃炊事當番が荷車を引つぱつて辨當を運んで來る。ワーッと歡聲が上る益々仕事の能率が上る、

十一時半、午食握飯に香物一つの食事も勞働後の學生には如何なる美食よりも有難いもの、一時迄涼しい木陰で憩ふもの芝生の上にねころぶもの、午後からの勞働に具へ充分の休養をとる。午後一時作業開始。

三時、四回目の勞働、相當の疲勞は見えるが今日の仕事も之で終りと思へば新なる力が湧く。

四時半、作業終了の笛にホッとして汗をふく。持つてるだけの汗を全部出してしまつた樣な快味を滿喫しつゝ各道場に引き上ぐ。

五時半、夕食。御馳走が一品でる毎に子供の樣に喜ぶ學生入浴一日の汗をすつかり流しさつぱりした氣分で八時の點呼迄樂しい時間を思ひ〳〵に送る。

八時、廊下に整列、點呼修禮。

八時半、消燈、床に就くと直ぐ寢いつてしまふ、さぞかし安らけき夢を結んで居る事であらう。若人の健康な寢息の中に夏の夜は更けて行く。

各道場區隊長教官

第一道場	木部教授、橋本教授、林教授、北田助教授
第二道場	濱林教授、西田教授、大谷教授、秋山教官、松尾教授
第三道場	源美助教授、三箇教授、品川教授、服部助教授
第四道場	糸魚川教授、原岡教授、木村教授

本校學生最初の出征

安藤正巳君

☆☆☆勇躍征途に☆☆☆

支那事變勃發以來我が忠勇なる將兵はあらゆる勞苦を忍んで次に開かるべき新たなる歷史の進展者たるべく彼の廣大無邊なる支那各地に燎き血潮もて奮戰すること早や一週年、而して戰局は敵第二の首都漢口に迫り其の陷落も日睫の間にある。然し前途はより重大で國民は長期抗戰の覺悟を固めねばならぬ。

此の秋我學園より在學生として最初の榮譽ある出征軍人安藤正巳君を出したることは我が七百餘の健兒は勿論學園全體の意氣を益々盛んならしめつゝある。安藤君は今春四國丸龜より入學し滑氷競技部員として活躍して來た。今度同君が召集を受けその出發に當り十二日午前九時十分より壯行會を開き、卜部校長代理を始め各關係者より熱溢れる壯行の辭あり之に對し同君は短き乍らも帝國軍人として立派に國に一心奉公すると力強く述べ、其後直ちに小樽驛まで全學園を擧げて堂々行進その前途を祝した。我々は心から同君の身體を頑丈にし益々活躍せられんことを祈る。尚應召地は彼の有名な大場鎭激戰に功を馳せた○○の步兵○○聯隊である。

（寫眞は出征直前停車場にて）

文化の啓蒙普及のため

象牙の塔を出づ

道南巡回講演

象牙の塔を出て親しく一般人と接し文化啓蒙の重大な役割を果して來つた講演部の巡回學術講演會は本年度は既報の如く其の巡回區域を道南各地とし大野、久木兩教授を始め學生が日頃の蘊蓄を傾けて熱辯を振ひ各地で大盛況、函館の如きは三百名餘で大體平均二百餘の聽衆あり多大の成功を收めた。尚今回は同窓生諸氏の御熱心に御盡力下さいました事を紙上より御禮申上げます。

その演題は次の如くである

大野教授　我が七十五億と國民經濟。統制下に於ける貯蓄の意義。戰時下の物價問題

久木教授　經濟上より觀たる日支事變。戰時に於ける海運の使命

飛塚誠一　統制經濟の原理

長瀨澤夫　孝の倫理

北村幸　時代思潮と農村中產主義。社會政策の出發點

清岡良一　轉換期に於ける吾が貿易政策

○夏休中の圖書館

自七月十三日—至九月十日　午前八時ヨリ午後四時マデ　但土曜ハ正午迄、日曜閉館

自八月一日—至八月三十一日　休館

山へ！山へ！

山岳部　夏期スケヂュール

夏が近附いて來ると若人の胸の中に湧き立つものは、海へ、山へ、の思ひである。白雲を突き破つて天空高く聳え立つ山の姿を仰ぎ見る時、若人の血は感激に燃ゆる。遠く俗界を離れ嵬々たる山頂を仰ぎ見つゝ、征服慾に胸を躍らせて、草を分け、木の下を潜り或はピッケルの音も勇ましく切立つ斷崖をよぢ登る等あらゆる困難艱苦にたへ忍びながら遂にその目的を遂しのぼる朝日を眺める事は山でなくては味はれぬたのしみである。年々、華々しい躍進を續けつゝある吾が山岳部の夏季スケヂュールを見やう。

第一班（一週間）七月二十日　石狩岳、ニペソツ岳、帶廣方面より音更川遡行

第二班（十日間）七月下旬　愛山溪溫泉—旭岳—忠別岳—トムラウシ岳—石狩岳—音更山岳—雲溪

第三班（五日間）八月二十日　南アルプス　（A班）惡澤岳　荒川岳赤石岳　（B班）聖岳　（遠山川遡行）

第四班（三日間）七月下旬　余市岳

なほ、部員は三年、內藤、奧村、太田、多川。二年石塚、柿本、中川の諸君である

（寫眞は十月登山の豫定の蘆別岳）

文化講演

『民族的世界觀』

大串兎代夫氏

六月十八日（土）第二時限より三時間にわたり國民精神研究所所員大串兎代夫氏の講演があつた。同氏の謹嚴な顔付又燗々たる眼ざしは學生を壓し、その熱情溢れる講演は深く學生を感動せしめた。尙要旨は大串氏の專門とせられる法理學上より國家の概念に付き國家說の歷史的變遷を說き卽ち國家機體說、國家有機體說、又純粹法學上よりの國家說を說明批判し次いで世界觀の問題に入り果して今日まで云はれて來た世界歷史なるものが本當に世界歷史であるか否かを檢討し、それはただに西歐から見た世界歷史であり決して眞の意味の世界歷史でないと斷言し、その眞の世界歷史を展開しつゝあるのが我が日本であり、それは既に日露戰爭に端を發して居り今日の日支事變は將に斯る意義に於て把握せられるものである。左樣でなければ日本は斯くまで犧牲を拂つて戰爭する理由がないのである誠の世界史の展開のため、その唱導者として我日本は戰つてゐるのである。

斯る時に際し歷史的時代に生れた我々青年は我國インテリ特有の消極的、ニヒル性を潔ぎよく拋棄し誤れる眞理の普遍性より脫して確固たる土地と民族の上に立脚して眞の世界歷史の擔任者たるべきだと、新たなる世界觀を說いた。

就職申込殺到し面喰ふ

來年度卒業生に對する就職申込數は既に四、五十社にも達し面喰ひ、亦決定も相當あり生徒も稍面喰ひの態である。申込會社の大半は工鑛業會社でそれも殆ど一流會社ばかりである。六月頃から次々に貼られて行く申込會社名は完全に三年生をキャッチし夫々會社名簿や就職關係の參考書も覗かねばならぬ狀態だ。此の調子で行くと冬休み前に殆ど決定しさうである。

公開學術講演會

主催—講演部

講演部主催の公開學術講演會は六月十九日（土）午後五時半より小樽無盡會社會議室に於て開かれた。熱心な市民各位又學生が多數來場し辯士諸君も熱意と日頃の蘊蓄を傾けて講演し多大の效果を收めた。ただ然し稍一般市民にとつては難解な論の多少あつた事は遺憾であつた。矢張その性質上もつと具體的に論旨を徹底せしめる必要ありと思はれた。辯士及演題の要旨は次の如くである。

一、信託會社論　伊原利勝君

信託會社の金融機關としての地位及その類似的地位にある銀行との關係を詳述し而して時局下に於ける信託會社の唯一の任務を公債消化の助成なりとする

一、日本貿易政策の一考察　清岡良一君

世界經濟の流れがブロック主義へと流れてゐるそれと伴つて日本の貿易政策の變遷を說き而して現在の日滿ブロック經濟の他のブロック經濟に對する關係を論及する。

一、自由主義論　長瀨澤夫君

自由の本質より說き起しその中に人間性を求め、それがルネッサンス以來自由主義の名の下に如何に變遷したかそしてその變遷の背後にある時代性を一々指摘した。殘念なことには時間の關係上その歷史的論及が十九世紀初葉あたりで終り、大切な現代に及ばない事だつた。

一、社會政策學の出發點　北村幸君

論者は社會政策學より寧ろ政策學の科學としての成立の可能性に就き重點を置きその歷史的經過及論者の科學觀よりの批判を試みたが稍一般人には難解であつた、論題の性質上止むを得ざるものであらう。

一、經濟學に於ける勢力の地位　飛塚誠一君

經濟學上の所謂勢力說をツガン、高田博士の所論より借りて述べ其の批判を純粹經濟學上よりなした。

一、幕末に於ける日本數學概觀　林五郎教授

日本數學の發達を德川時代より說き起しその根本を爲した和算の發達とその優秀性を時代別に又人別に詳述し日本數學の再認識を促した。

國際協會活躍盛ん

國際協會夏期大學

今回、輕井澤町沓掛に於て、七月十四日より十八日迄の四日間、夏季大學が施行されることに決定した。參加校は、大學專門學校合せて四十一校を數へ參加人數は一一一名の多數に上りその盛會が豫想されてゐる。本校よりは、中谷貞一君（三年）沼田寬君（三年）の兩君が參加する

懸賞論文

豫てから募集してゐる、懸賞論文は（一）日滿支の經濟關係、（二）歷史上より見たる支那民族性（一題自由選擇）で我綠丘文化の對外的發揚の爲諸君の眞摯な論策を奮つて應募せられんことを切望す。締切は十月末である

就職狀況を語る

松田講師

一ケ月に亘り滿洲國の產業教育狀況並びに卒業生の就職狀態調查の爲出張中であつたが此程歸校された松田講師は就職に關しては次の如く語られた。「本年卒業生は勿論卒業生は皆眞面目に一生懸命働いてゐるので心強く感じ亦どの會社に行つても本校の評判のよかつた事は誠に喜びにたへない。その爲に來年度卒業生の就職も誠に好都合でこちらで推薦すれば必ず採用してくれるだらうただ希望としては先づ第一に身體の強健な人を欲つしてゐる事はどの會社に行つても云はれた。又滿洲に對して相當な認識をもつ事が必要でただ景氣がよいから等と云ふ事だけでなく骨を滿洲に埋める位の氣持のある人を望んでゐる等々」と。

注目の遠征投票

どう〳〵たる非常時の波の中に、多額の費用を要する運動各部の遠征は、例年通り行はれ得るや否やは、相當な問題となつてゐたが若人の意氣を委縮せしめる事は非常時下の青年にとつて悲しむべき事柄であるとなし本校に於ては遂に遠征を敢行する事に決した。六月二十一日零時四十分より講堂に於て全學生集合し、各部代表の熱烈な候補演說あり後投票を行つたが開票の結果次の如き票數であつた。

庭球部	三五四票
野球部	三一九票
劍道部	二九五票
弓道部	二四六票
柔道部	二〇〇票
ラグビー部	一九二票
水泳部	一三六票

而して遠征費千圓であるので庭球野球劍道弓道の四部が遠征と決定した。尚割當金は次の如し

庭球部	一七五・七九圓
野球部	三七六・五二圓
劍道部	三二九・六三圓
弓道部	一〇七・九九圓

座談會

去る六月一日北大上原教授を煩はし、會議室に於て、左の如き演題の下に滿洲に關する御話を伺つた「移民問題を中心とせる滿洲」出席せる者約三十名殊に今夏決行の滿洲旅行團參加者にとつては極めて有益なる參考となつたのである。

敍任及辭令

六月十五日

敍從六位　正七位　大谷　敏治

敍正七位　從七位　三箇　清

　　　　　從七位　松尾　正路

宮內省

振ふ！高專高商兩大會

—庭球東北大會に優勝！—

遠征投票により遠征と決定した部は校友の熱意に副ふべく共試驗終了後夫々大會參加の爲遠征の途に出發した。我々はその奮鬪に多大の期待をもつて戰報を待つてゐるが今日まで判明した成績は次の如くである。

○庭球部豫選に優勝

七月十二日より仙臺に於て開かれてゐる高專東北大會に出場した庭球部は福島高商の諸豪を輕く一蹴して同大會に優勝し覇をなし中原に進めてゐる。同大會に優勝した事は開部以來三度目位に當るさうである。又此の新聞が諸兄に渡る頃は全國大會に於ける活躍の快報が入ることゝ思ふ。

○弓道部惜くも四位

十三、四日の兩日東京國立道場に於て行はれた東京商大主催全國高商大會に出場幾多の強豪と力戰奮鬪惜しくも僅かの差で第四位となつた。成績次の如し。

（百射）

第一位	四十九中	高岡高商
第二位	四十八〃	東商大豫
第三位	四十七〃	橫濱高商
第四位	四十五〃	小樽高商

○野球部敗退

十三日より宇都宮に於て開かれた東北大會に於て第一回戰宇都宮高農とぶつかり11—5で敗退した。

○劍道部

十八日より三日間國立道場に於て開かれた東京商大主催第二回全國高商大會に出場し第一豫選に於て中京の雄名古屋高商を輕く七—三で破つたが第二回戰神戶高商との對戰に於て六—四で惜しくも敗れた。尚決勝は關學高商部と長崎高商との對戰で六—四で關學高商部の優勝する所となつた。我々は三年生が滿鮮旅行等の爲、たゞ一人しか參加してゐないのにも拘らず一、二年生の諸君の上述の如き成績を擧げた事に對し感謝の意を表す。

〃水の王者〃

小池、田口來る！

去る六月二十四日オリムピック選手たる平泳の小池選手、自由型の田口選手及び新進の背泳の阪本選手等來樽し水泳部員は全員約一週間に涉つて個人的コーチを受けた。彼等の完成された泳法、コーチの巧さは、とかく荒削りの我が選手をして、自己の泳法の缺點を知らしめ大なる成果を收めた。即ちフォームの改正は合理的な練習と結びついて、今後好記錄の續出する事を確信するに至つた。

尚二十六日に於ける右の三選手と北海道軍との對抗水上戰は雨天の最惡のコンデションにも拘らず、午後二時より開始され本校よりは長田、久富、齋藤、高木、生田の五選手が出場し大いに力戰奮鬪せしも、之等の大選手には到底及ぶを得なかつた。しかし各種目に中等學校選手を抑へ、相當な成績を示した。

學內通信

○事變一週年記念に際し

極東の新しいセタジオの一彈が轟いてより早くも一週年、皇軍の武運長久と戰勝祈願の爲七日午前十一時全員校庭に集合、ラヂオ體操、卜部校長代理の訓話あり後、十二時を期し一分間默禱をなし事變戰歿者三萬六千餘人の英靈の冥福と且第一戰に活躍の將兵士に感謝の念を捧げた。亦其の後蜷川配屬將校の事變一週年を顧みての作戰計畫と長期抗戰に對する學徒の覺悟に就き講話をなした。

×

又一方鐵銅鉛アルミニウム類の一人一品獻納も行はれ、更に遠き戰場の將士の心苦を思ひやり一食一菜主義を強調した。

越えて九日午後一時より講堂に於て下し賜はりし勅語奉讀式は次の如く行はれた。

勅語奉讀

內閣告諭朗讀

卜部校長代理の講話

蜷川教官講話

○貨幣金融研究會

貨幣金融研究會主催の第二回討論會は、三年泉山君の發表にかゝる「物價問題に就て」及び小樽無盡會社々員の特別講演「無盡金融に就て」の二つを演題として二十三日午後六時半より高商クラブに於て開催された。

○結核豫防

六月下旬數日にわたり道廳より金井博士を招きマントー氏注射反應及血液沈降速度の檢査をなし從來より一層科學的に結核豫防の方法を講じた。その結果としては反應は多くの學生にあつたが沈降速度は少く學生體位は先づ良好と云ふ所。

○夏期勞働

例年通り夏期勞働は小樽札幌今井兩デパート及大國屋デパートにて行はれる事となり希望者は多數あつたが抽籤により十六名選ばれ夫々の處に於て此の炎天を冒して男々しく實踐勞働に服し尊き體驗を爲す事となつた。

○夏期修學旅行

本年度關西方面への修學旅行は北村教授引率の下に七月十四日より二十五日迄の豫定で出發した。尙解散地は大阪である。

○滿鮮視察團

注目の的の同視察團も小林教授、玉井助教授外生徒四十七名は十六日午前十時三十分發にて勇躍滿鮮に向け出發した。

伊藤整氏等を圍んで座談會

集團勤勞の終つた十九日午後六時より北海ホテルでセルパンの方の御用で來道された伊藤整氏、大島豐氏、春山行雄氏の三氏を招き編纂部司催の下に座談會を開いた。地方的條件により滅多にお會ひする事の出來ぬ三氏と親しくお話しする事の出來たことは我々の喜びである。尙座談會の記事は期日及紙面の都合上來月に廻します。

『丘の聲』

—夏休みを迎へ學生に與ふ—

投稿歡迎　八〇〇字以內

何かしら不滿げに授業が終るといそ〳〵と歸る學生を見る時、如何にかして其の秘密を探りたいといふ望みが以前から遂せられずに殘つてゐた。生活の行きづまりか、科學への懷疑か、將又社會に對する疑念か、其の何れであるにせよ、餘りに窮屈さうな一群である。學生は圖書館にも見えないし、運動場にも姿が無い。一體何處に居るのだらうか。とよく皮肉つて言ふ人がある。家でごそ〳〵何してゐるのか充分に己が意を滿たすべき程の讀書家が學生の中に何人居るだらうか、是如き意味で云つてゐるのであらう。同感で、教授連は、圖書館に學生なく、我が校の學の水準落ちたりと嘆く。學生は又かと聞き流す。一體今の學生は眞面目なのであらうか、疑はしくなるのも當然である。種々なる會合に出席してみる。終始一貫一言も話さずに過す人が大多數だ。ぢや何故會に出席したのだ其の科學的雰圍氣に浸りたかつたのか、然しそれ丈けでは自分一人で書齋で讀書に耽つた方がより効果的ぢやないかしら。話すべく何物もない自己が恥しくてと其の人は辯解するかもしれない。ぢや何故もつと眞劍に己が勉學に勵まないんだ。どうも俺にはそれは出來ないんだ。と。全く救ひ難き人々である。何んとかしてその人を救ふ方法を探し出してみたい思ふに己が知らざり一步先に出た人と務めて語つて行かうと努力する人はまだ救はれ易い下へ下へとそのレベルを落して行く人からはたゞ頽廢的な香りしか得られない。では知識の一致した者同志の會を結成するか、或は又その差が甚だしくても自由に話し合へる氣樂な會を作るかでなかつたらもつと〳〵其の人をどん底まで突き落してやつて、何れかであれ悟る日を待つか、何れかであらう。一度芝居氣など微塵もなくて本當に苦しんで得たよき光ならば、その人を一生涯善導するは必然である。己が知識の貧弱さに悲しみながらしかも眞劍になり得ない人よ一つ過去の一切の滿たされざる原因の那邊にあるかを積極的に探し出して見たら。又その原因を知り、解決法を知る人よ、再び此の欄に於て導いてやつてはどうか。人の苦惱を解決してやると案外自分のもその緒を見出すものである。

No.104

綠丘新聞原稿募集

種類　論文（學術文藝）　詩歌、隨筆、創作

諸君の今夏中に於ける勞作を期待す。特に最近振はざる創作を希望す。

期日—八月十日迄

字數—三千字以內

編纂部

第一面

西野嘉一郎氏　本校（大15）卒業生

伊藤整氏　本校（大14）卒業生

橫川義雄氏　本校（昭六）卒業生

大谷敏治氏　本校教授

第三面

松尾正路氏　本校教授

小寺喜一郎君　本校生徒

加藤政廣君　本校生徒

服部鉞雄君　本校生徒

第四面

竹內良和氏　本校（昭11）卒業生

中山庄子男氏　本校（大15）卒業生

試驗に續く六日間の集團勤勞軒に際しては最も大切な時期を全く新聞から手を引かねばならなかつた上、理事北條及び森田の疾病あり慘澹たる苦鬪の末漸く出來上つた本號を手にする時我々は感慨無量である。大瀧生

×

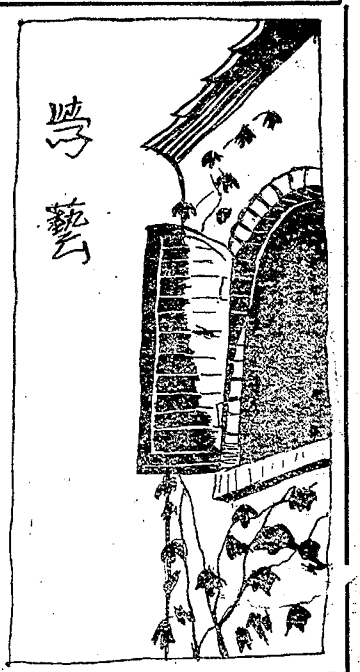
夏休前の新聞なので成可論文を多く無理して載せましたから是非御一讀を願ひする。

一面は我が誇りとする先輩三氏の玉稿を得た事は喜びにたへません。御職務で御多忙中わざ〳〵我々の爲執筆して下さいました事は失禮ではありますが紙上より厚く御禮申上げます。夫々專門の經濟學、文學、經濟學上より最新の問題を取上げて居られる事は興味深いものがあります。卒業後も孜々として勉學にいそしむ立派な先輩に顧みて自ら慚愧する點は無いだらうか。四面は同窓記事輻輳の爲同窓記事の割愛を餘儀なくされた事は筆者に對して心からお詫申上げます。

兎に角、集團勤勞終りてから始めた難關二面も毎日の酷暑に妨げられながらも愈々今晩出來上り、連日の疲れから來る睡氣と戰ひつゝ校正をやり終へ、阿部君と二人で靜かな印刷所の校正室で睡眠をとりながら顔を見合せて互に安堵の欠伸する。（時に十時過ぎ—）（松野生）

×

附記—我部の機關誌「綠丘學人」は此の事變下時局の進展と紙面制限等の爲今年は遠慮すべきか部の人々のお叱りもあるかも知れぬが我々は相當熟慮の上遠慮と決定しましたから、御諒知置き下さい。非難の點は甘受致します。



戰時物價と金政策

小寺喜一郎

戰時經濟の原理は國家の凡ゆる經濟力を戰爭目的の迅速有効なる達成に奉仕せしむるに在る。即ち優秀な軍需品を豐富且敏速に供給するに在る。然しながら戰爭が突然的なる限り、其巨大な需要に對し生産力は到底に之を滿たし得ず、此處に急激な物價騰貴を喚起し、物價騰貴は種々なる點に於て戰時經濟を弱化するのである。斯くて資本主義下の戰時經濟に於て物價問題がその中心問題として登場して來る。

物價騰貴は第一に軍事費を實質的に削減する結果を生ぜしめる。例へば軍需品の價格が五割騰貴したとすれば同じ軍事費で騰貴前の六割六分の數量しか得られなくなるからである。第二は軍需品の騰貴は必然的に民需品の價格騰貴を招來し實質所得を下落せしめ國民大衆の生活不安社會不安を惹起する。第三は輸出貿易の阻害である。後に述ぶるが如く戰時經濟に於ける輸出貿易の任務は重大である。然るに物價騰貴は輸出品の生産費を大ならしめ海外市場に對する競爭力を削減する。

以上の如く物價騰貴は戰時經濟を弱體化し、騰貴原因が軍需品の需要に在り、而も其需要が如何にしても調達せられねばならぬとするならば放任經濟下に於ては物價騰貴は次々に物價騰貴を呼び、遂には惡性インフレを導くであらう。然らば此重大問題に對して如何なる處置をとるべきか？需要の抑制は之を不可能とすれば全力を舉げて供給量の增大を圖るのみである。然らば供給量の增大は如何にして達せられるか？生産力擴充、外資の輸入國際收支の改善、消費節約金現送が即ちそれである。以下その各々に就て考察して見よう。

第一 に生産力擴充の問題であるが之が意義を有するのは生産設備、原料、勞働力等の生産要素の餘力が豐富に存在するか又は此等生産要素が容易に增大せられ得る場合である。然るに今や吾國に於ては生産設備に餘力なく、之が擴張は建築資材の需要、機械類の輸入に拍車を加へ、而も新設備の完成には相當の期間を必要とする。次に原料の生産も又多く期待し得ず、更に勞働力に於ては其最も重要な技術者熟練工は甚しく不足を告げ、之が養成も早急になし得ない現狀に在る。斯くては生産力擴充の効果は推して知るべしである。原料の輸入を豫想しての生産設備の擴張は今や何等の意義も有しない。何故ならば其が意義を有するのは豐富且低廉な他の生産要素の存在を前提とし、若し此前提が破れるならば寧ろ完成品を輸入するにしくはないからである。

第二 は外資の輸入である。今若し外資が豐富に輸入せられ得るならば生産力の不足は之に依る軍需品購入に依り補足せられ當面の難關は切り拔け得る。然し今日の國際狀勢は我等から此希望を剝奪する。何故ならば英、米、佛等の世界の投資國は總て投資を拒否してゐるからである。

第三 は國際收支の改善である。即ち國際取引に於て他の事情等しき限り、受取分の增大は、それだけ外國商品の購買餘力の發生を意味するからである。此國際收支は Visible Trade と Invisible Trade とから成る。Visible Trade は更に商品の輸出と輸入に分れ、他の事情等しき限り輸出の增加は國際收支の好轉を意味する。然し我が國の如き原料輸入國では輸出の增加は輸入の增加と無關係ではあり得ない。故に爲替並に貿易の管理の如きも輸出品の原料輸入に適用して意義を有するのは他の生産部門より効率の劣り、摩擦も小なる場合である。此點我が國の爲替、貿易管理には難點が多い。されば輸出を阻害し、輸入品を暴騰せしめ思惑的惡影響を各方面に及ぼしてゐるのである。此事實あればこそ斯る管理の撤廢說も有力な論據を與へられるのである。

次に Invisible Trade であるが其中最も重要且つ事變と密接な關係を有するものは海運收入である。最近の發表に依ると絕對額に於ては昨年は前年に比し約一億圓の激增を示してゐる。然し多數船舶が御用船として使用せられてゐる事を考慮すれば、それが國際貸借に表れる部分は寧ろ減少してゐるとさへ考へられる。

第四 は消費の節約である。即ち民間の軍需品消費の節約はそれだけ政府の需要が多く滿たされ、又民需品消費の節約は、その物價を抑制し、又輸出餘力を增大せしめ、更に生産力轉換策の最大の武器となるからである。何故なら現在軍需工業の生産力擴充は平和産業よりの轉換に依る外、道なく、その轉換は消費の節約に依つてのみ可能であるからである。然し、其限度は一方に於て國民の生活水準に依存し、他方諸産業、特に輸出産業との効率の比較に依存することも勿論である。消費節約には二つの方法がある。一つは自然的節約であり、他は强制的節約である。前者は消費者が自然的に收入の一部を貯金したり、獻金したりする場合である。此方法は摩擦殆どなく、最も理想的な方法である。政府の所謂貯蓄の獎勵も此方法に依つて公債を消化し物價騰貴の抑制と增稅に依らざる戰費の調達とを狙つたものである。然し之は人々の消費の性向の大なる變化に依つてのみ眞の効果が得られるものであり、隨つて國民の時局認識の程度と現在の國民生活の餘裕の大いさとに依存する。次に强制的貯蓄は物價騰貴に依る實質所得の低下、租稅に依る所得の一部の徵發の如く非自然的强制的な方法である。然しインフレーション政策に依る節約の强制は多くの難點を有し又我が國現下の物價狀勢に於ては採用せらるべきではない。他方增稅に依るものは假令多少の摩擦を生ずるとも現下の日本に於て、特に上層階級に於て尙相當の餘地があり、又戰時景氣の見地より軍需工業家、生産力轉換策の見地より平和産業家に相當の租稅を負擔せしむべきであらう。

第五 は金の現送である。即ち金輸出に依り軍需品を購入し爲替を維持する方法である。此方法は最も摩擦少く、容易且つ有効な方法である。之には本邦人所有外國證券、外貨預金、外貨貸付金並に或程度迄の本邦外貨證券も金と同一視せられる。政府は早くから産金獎勵、金買上、退藏金、外貨證券及び資金の綿密な調查に非常な努力を拂つてゐる。特に昭和十二年五月の金買上値段の大巾の引上、八月の産金法、日銀正貨準備の評價換、金資金特別會計の設置は最も注目すべきものである。斯て政府は强力な産金管理を行ふと共に積極的に金增産五ヶ年計畫を立て五年後の昭和十七年には年産額を昭和十二年の約五十噸から約百三十五噸（時價に見積つて五億八千九十五萬圓）に達せしめんとしてゐる。政府は此新産金と評價換に依つて得た四億一千二百萬圓の金資金及び必要に應じて約十億圓を退藏金約二十一億圓の本邦人所有外國證券、外貨預金並に貸付金額面價額約七億六千萬圓の本邦外貨證券を動員して軍需品の輸入と爲替相場の維持を計らんとしてゐる。更に地金學說の誤謬明瞭なる今日八億一百萬圓の日銀正貨準備も現送用に供し得べく、之等の合計は巨額に上り、之のみにても入超をカバー出來る如く考へられるかも知れない。然し戰爭は何時終るとも豫想し難く、又戰後對策の重要性を考へるならば斯の如き便利な支拂手段は之が使用に萬全の注意を必要とする。

以上は需要側を如何ともし難きものとし、此需要を充足し得べき五方策の各々に就ての考察である。然し各方策は獨立せるものでなく相關々係を有する。故に全體としての最大効果は各方策の限界効率均等の點に於て與へられ、斯かる點は唯に經濟のみならず、總ての文化諸現象の調和に於てのみ與へられる。故に採るべき政策は嚴に摩擦を避くべきで、かの棉花輸入制限に關聯して惹起した如き混亂と失敗とを繰返さゞる樣萬全の注意を必要とする。

佛領印度支那に於ける民族主義の問題

松尾正路

最近のル・タン紙に連載されたフランシスク・ヴイアル氏の佛領印度支那情報がどの程度に客觀性をおびてゐるかは知るよしもない。主として文化史的視野から眺められた印度支那の民族主義運動や東西兩洋文化の辯證法的發展への期待を物語つてゐるこのルポルタージュは、むしろ多分に報告者の主觀的觀察や推測を現はしてゐるやうに思はれる。然し、報告者の主觀が同時に自由主義ヨーロッパとフランス的なヒユマニズムの說明となつてゐる點で大きな興味と暗示を與へる。それは、現在の日本が自らの使命を考へてゐるものに對する本能的なヨーロッパの感情であり、フランスが東洋の自國植民地に對し英國の植民政策から區別しようとしてゐるヒユマニズムである。

『吾々フランス人にとつて印度は何を敎へるか？そこでは東洋とヨーロッパの文化が果しない鬪爭を展開してゐる。印度に於ける英國人はたゞ武力によつてのみ彼等自身を守り、印度人の激昂はあらゆる節度を越えてゆく。それは單に血の鬪爭に止まらない恐ろしいドラマである。』ヴイアル氏は東西文化の遭遇がこのやうな鬪爭に終ることを悲しみつゝ、英國に對立する印度を安南人とフランス人の問題に結びつけてゐる。氏はフランスの植民政策と安南の歷史及び社會を代表する人達が英國と印度のやうな鬪爭狀態に置かれてゐないことを幸福とし、將來二つの文化と民族が更に强固な結合に達し得る確信をもらしてゐるのであるが、此處で特に安南をとりあげてゐるのは、安南にこそ最も根强い民族主義運動が行はれてきたのである。安南こそ佛領印度支那の運命を握る主體だからである。そして重要な問題は安南とフランスの間にはヴイアル氏の希望や確信それ自體が物語つてゐる如く、依然として將來が殘されてゐることである。のみならず、そこには現在の日支事變が與へてゐる影響によつて不安な影が投ぜられてゐる。この一點に觸れる瞬間、報告者のヒユマニズムは突如として『人間の惡魔』を露出し、文化の理想と政治のリアリズムに躓づくのである。報告者の記するところに依れば安南の民族主義者さへ『吾々安南人はこれ以上に不幸であり得たかも知れないことを考へて滿足しなければならない。何故なら獨逸人や日本人の代りにフランス人を主人に持つたことは比較的に良い主人を選んだことになるからである。フランス人こそ他人の存在を許し、而も自己を强制しない最も偏見から脫した民族である。』と云つてゐる。そのフランス人であるヴイアル氏は率直にヨーロッパの危機を認め次のやうに語つてゐる『吾々が誇りとしたヨーロッパの個人主義文化と社會生活は、諸々の全體主義國家の中に跡形もなく消滅し、他方デモクラシイ國家は緩慢な日和見主義的な、窒息しさうな空氣に包まれてゐる。この沈滯と無氣力の相貌はローマの末期をさへ偲ばせるものがある。佛領印度支那に生活する數多あるフランス人は、絕えざる新しき感動の追求と物資的完成に急ぐヨーロッパの動搖と騷がしさに比して彼等の目前に、生と死と日々の生活と幸福について佛敎や儒敎の靜かな敎訓が行はれてゐるのを如何に見るか？』報告者ヴイアル氏はヨーロッパ的絕望とフランスのデカルト文化を東洋の慧智と結婚させることによつて救ひ、人類のより高き幸福を可能ならしめんとする。よき哉ヒユマニズム！誰が異論をたてようぞ。然しフランスの一保護國たる安南王國が東洋文化の代表者ではなく、その傳統精神にも拘らず、政治的には亡國の運命に置かれてゐる場合、ヨーロッパの危機は何故安南の頻死的な東洋精神にのみ賴らなければならないか？また、安南自身、彼等の民族主義運動がヨーロッパと握手する程民族の傳統と獨立を取戾してゐない場合、如何にしてヨーロッパの文化を彼等をしてます／＼彼等自身たらしめるやうな方法で消化することが出來るか？彼等が眞の東洋人たる以前に如何にして西洋と結婚し得るか？ヒユマニスト、ヴイアル氏は惡意に滿ちた視線を極東の一角に投げかけて默つてゐる。この沈默の蔭で幸福な安南の民族主義者は語つてゐる『或る民族が支配者として他の民族國家の中に存在する場合、そこに行はれるものは必然的に武力政治である。武力によつて征服した民族の統一は武力によつてのみ維持される。鐵の手はビロードの手袋をはめても矢張り鐵の手である。傷は癒えても傷跡は殘つてゐる。フランス人は忘れても吾々安南人は忘れない。吾々はフランス人によつて占據されざる以前の安南人としてのみフランス人と語ることが出來るのである。』これは一九三二年の民族主義者が報告者ヴイアル氏に宛てた手紙の一節である。自國の政治がフランス人によつて事實上支配されることを安南の民族主義者が如何に感じてゐるかはこの短い手紙の一節から明瞭に判斷される。ヴイアル氏はこの點に關し『吾々はつねに吾々自身の爲に愛されてゐると信じ度い。少くとも吾々が相手に對して抱いてゐる好意を相手が示してくれないと考へるのは非常に痛いことだ。然し吾々は諦めなければならぬ。何等の先入主も下心もなく愛されようと望むことは、此處（安南）では不可能だ。彼等（安南人）はフランス人を受けいれてくれる。何故ならさうするより他に仕方がないからである。また、さうするのが結局一番よい方法だからである。彼等は愛想のよい顏さへ見せてくれる。然しそれだけである。そしてそれ以上を彼等に期待することは當分遠慮しなければならぬ。』

更に今日の安南人は、その調子が穩健であるだけに一層悲痛な告白をしてゐる。『民族の境遇は固定的なものではない。過去にのみ捕はれるのは止さう。必要なそして可能なことは現實の改善と未來への希望だ。無用な反逆や陰謀に賴つてはならぬ。眞實と尊敬をもつてフランス人に接しフランスの中よきものを吾等の精神と活動の糧としなければならぬ―』安南人の告白は日本人としての吾々に二重の意味と反省を與へる。

『路傍の石』

原作……山本有三
脚色……荒牧芳郎
監督……田阪具隆

日露戰爭當時に波瀾多き少年時代を過した『吾一』少年の强き意欲に生きた姿を描いた此の映畫は文部省と日活との共同企劃より成るものであり、從つて監督の云へる如く其れは社會敎育的價値と藝術價値と興行價値の一元的綜合へと新らしき試みである。併此の映畫に對する一般の關心は矢張り其の藝術性が重視されてゐるからである。單に少年『吾一』の如き環境にありながら一途に進む意思の强き即立志美談的な事ばかりでなく斯る環境にありながら何故に社會主義に溺れず反つて國家的人物となつて行つたか、その時代を如何に少年が感受していつたかが此の映畫に對する期待である。尙映畫は前編後編に分れるが各々獨立したストリーを持つ樣に作成されてゐる樣だ本道興業は十月頃の豫定

爲替精算制の一考察

加藤政虎

世界大戰を契機として世界の勢力は思想的に、政治的に、經濟的に大きな二大潮流に分れ、逐年そのアウトラインを明瞭ならしむる傾向にある。こゝに於てか「持てる國」と「持たざる國」との鬪爭は益々深刻化された。戰後の國民主義はその初期に於ては、一途にアウタルキーへの方向に進んだことは事實である。けれども極端なるアウタルキーへの進展は逆に國民主義への反逆に他ならぬことが實驗せられた。國民主義は他の方向に「轉身」することによりて即ち「ブロック主義」と「貿易主義」との性質相反する「主義」の中に「自己貫徹」を期することになつたのである。斯る世界經濟的事情はその打解策として種々なる經濟政策がとられた。而して此等の中でも此れから述べんとする爲替淸算制はそのブロック經濟の爲替決濟の新しき方法として現れたのである。即ちそれは世界大戰後即ち一九三一年十一月輸出不振及金保有量の減少から貨幣價格の崩落を防ぐ爲はハンガリー政府が商品の代金支拂はその國外に送金せずハンガリー中央銀行のブロック勘定にハンガリー貨幣ペンギヨーで拂込ませその貨幣は直ちに國外に移送されずしてそのまゝ中央銀行に保有されることゝしたその爲に諸外國特にスイスは輸出は殆ど困難となつた。スイス側に於ける代金回收の要求とハンガリー側に於ける輸入の容易化の要求所謂必要を母體として生れたのである。又ドイツイギリス間の協定も「苦悶の表象」であつてこの成立事情に關しては紙面の都合上約するが次の論文を參照されたい。Einzig Exchange Control 三菱經濟研究所 世界經濟の現勢 十龜盛次氏『爲替淸算制と獨新協定』（エコノミスト昭和九年十月二十一日）岩田仭氏『爲替淸算制』三田學界雜誌三十卷四號爲替淸算制の効果

然らば次に爲替淸算制の意義如何と云ふは其は「爲替決濟の方法によらずして（公的淸算機關による）振替の方法によつて國際收支を淸算する方法」（註一）であると定義されるが然らばその淸算の方法の形態を用語上の區別を無視して次の如く分類しよう爲替淸算制の形態

一、通貨の國際間に於ける移動を通じて交易を行ふことの出來る方法には物々交換の制度がある。即ち一國の輸入業者はその輸入品の代價支拂としてその國よりその相手國たる輸出國へその輸出品の對價を以て決濟する方法である。

二、次に一國の輸入業者はその輸入代金を同額の輸出を行ふ自國輸出業者に對して自國貨幣を以て支拂ひ同時に相手國輸出業者に對して自國輸出業者の輸出商品を輸入せる者より代金受取るといふ協定を行ふ場合である。

三、然し第二の形態に於ては自己の輸出（或は輸入）に對してそれを決濟し得る如き輸出契約（或は輸入契約）を自國內に於て探し出さればならぬ。こゝに於てより合理的に此等輸出輸入を仲介し得る機關を必要とするに至る。單に相互に淸算される輸入契約と輸出契約とを結合せしめるばかりでなく、自國內の輸入業者より輸出業者への通貨移動の仲介の役割を務めるに至りその輸入代金は特別の淸算勘定に拂込まれ、それと關聯する輸出に對して支拂ふ事に使用される所の仲介機關發生する。

四、然しながら右の場合に於ても輸出業者と輸入業者との間の淸算價額支拂期日の一致は未だ容易に之を求め得られない。その困難を克服すべく仲介機關は發展して淸算機關としての機能を演ずるに至るのである。即ち貿易業者は欲する商品を自由に欲する數量だけ輸入或は輸出してその代金を自國の淸算機關に隨次拂込み或は受取るのである。而してかゝる取引の決濟事務は全く淸算機關によつて帳簿上の振替の形式で之が行はれるのである。此第四の形態が爲替淸算制度である。（註二）次に屢々混同されるバーター制goods clearing sistemなどゝの差異を明かにする爲に特色を示さうと思ふ。

一、この制度は爲替の方法によらずして國際收支を淸算する方法である。この點バーター制と異なるバーター制に於ての決濟は爲替によるのである。

二、この制度は振替の方法によつて國際收支を淸算する只單なる振替にあらずして公的淸算機關の特別勘定の帳簿上に於て振替相殺されるのである。

三、この制度は公的機關による國際收支の淸算方法にして而もその淸算は國を異にする所の輸出入當業者各自の自國貨幣によりて成される。（註三）

以上爲替淸算制の定義がその形態の記述特質の列擧によつて明かにせられたことゝ思ふ。たゞこゝにその國際收支の含むところのものは單に商品代金のそればかりではなしに一般に貿易外收支と稱せられる外債元利の支拂ひ船舶の運賃なども含まれるのである。

次にこの必要にせまられて生れたこの制度の効果は如何といふ問題であるがこれについてはEinzigは次の如く列擧してゐる。

一、金融的に虛弱な債務國相互間又は金融的に强壯な國からの輸入を可能ならしむる。

二、虛弱國も强壯國も一樣に虛弱國への輸出を可能ならしめ而も輸出代を回收することを得

三、爲替制限、割當制、輸入禁止的關稅や輸入禁止の樣な外國貿易上の種々なる障碍を除く傾向がある。

四、二國間に於ける貿易を向上せしめつゝ輸出入のバランスをとるといふことに役立つ。

五、輸出國が輸出の代償として輸入せしめる事に依つてダムピングを緩和せしめる。

六、通貨價値の下落國は同額の輸入に對してより多くの商品を輸出する必要に迫られる結果爲替ダムピングを防ぐ

七、舊債務の支拂を輸出の形式で行ふ事に依り容易ならしめる。

八、更により重要なことは國際關係に於て各國政府間に協調的精神を抱かしめる。（註四）

以上のEinzigの述ぶるところはあまりに理想的であると思はれるが然し本制度が「金融的に虛弱な國が自國の通貨制度の擁護の爲の一聯の爲替政策と各國間の不可避的な貿易關係世界經濟的關係との矛盾の止揚として發生」せる其目的自體からしても明かな如く通貨政策的機能をして融機構の混亂から救ふ事は經驗によつて證明された（註五）しかしこの制度と雖も換算率即ち爲替相場の問題は起り得るのであつて例へば法律の金平價とか株式取引所に於ける支拂日の平均相場などの如き註六定め方があるが今一々それを列擧出來ぬから「各國の現實の通貨價値を無視して人爲的に之を設定するか又は現實の通貨價値を考慮して之に適合せしめるかと云ふ事である（註七）然し現實の通貨價値を考慮せる後者の場合は現實の爲替相場と何等變りはないから人爲的に決定した前者の場合に於て爲替統制の意義あるのである。例へば通貨の換算率を法定上の金平價に依る事が協定されたとしよう、而してその何れか一方が名目上の金本位國である場合には、その國の國內物價はその國が金本位國である場合よりも高いであらう從つて其の輸入業者は淸算制度によつて不當に安く外國商品を輸入し得ることになる。反對に輸出業者はその輸出競爭力を弱められる結果となる。その結果貿易バランスは不利な狀態になり、かくて通貨安定なるこの制度の所期の目的が達せられぬ。惡結果に陷る以上は通貨政策的側面であるが然らば貿易政策的に如何なる効果を有するものなるや爲替管理との關聯に於て見て行きたいと思ふ。

一國が爲替管理を行ふ場合を假に自國産業保護の爲にする場合と貿易の不均衡によつて貨幣制度の混亂貨幣價値の崩落を阻止せんことを目的とする場合とする。若しこの分類が許されるとするならば前者の場合に於ては爲替淸算制は當然貿易政策上何等の効果をも有せぬであらう。何となれば當事國の一方は輸入を欲せぬからである。然らば後者の場合に於てこの制度は如何なる効果を有するか。

爲替淸算制度はその成立事情に於ても明かな如く又通貨政策的効果に於て述べた如く換算率の問題さへ解決されるならば附帶的に有利なことは勿論である。本協定が結ばれるのは通常債務國と債權國との間であるが債務國は通常爲替管理國であり輸入の爲に爲替を取得することは困難であるがこの協定（制度）の成立は債務國の輸入を容易ならしめ換言すれば債權國の輸出が著るしく好轉することゝなる以上の如く爲替淸算協定の結果は其處に何等貿易政策的操作の無い限り「債權國貿易勘定の逆調」とは全く正反對の事態を生み出す。かくの如き互惠主義に基く二國間に於ける貿易バランスの偏在は第三國の介入を必要とし以て三角的若くは多角的な爲替淸算協定を必要とするに至るであらう。

（完）

註

一、谷口吉彥　貿易統制の研究二五〇頁
二、岩田　仭「爲替淸算制度」三田學會雜誌三卷四號一一三頁―一一六頁
三、〃　〃　二五〇頁
四、Einzig Exchange Control PP. 一四〇―一四一頁
五、岩田　仭前揭書一二三頁參照
六、同　同　一二三頁參照
七、同　同　一二九頁

路傍

七月八月は天體の最も美しい時である。この月々ふと見上げる空に無數に燦然と輝く星座に、あれは『白鳥』だらうか『蛇遣』だらうかと讚美する經驗を人は必ず持つて居る。

日本人は詩的な國民である。

この『詩と傳說』の國には無數の詩がある。

天の川霧立ち渡り彥星の楫の音聞ゆ夜の更けゆけば

と詠じた萬葉の詩人は自然天地を美化する事を忘れなかつた。

星夜雜感

服部鉞雄

日本人は自然との關聯に於て生活した最もうるはしい國民であつたが、それにも不拘彼等はその自然を自分のものとする事が出來なかつた。

世界の文化の發祥地はエヂプトにせよ、ギリシヤにせよ、中央亞細亞にせよ、自然は單なる設物としての域に置かれはしなかつた。

宇宙の神祕から組織的神話『ミソロジー』mythology を作つた彼等の世界觀は、日本の古事記に見られる神話『ミス』mythen が僅に史的事實と混合して出來上つて居るものより遙に秀れて居りその故に彼等の文化の創造は地理的に殆ど同一條件の下にあつた日本との歷史的時間の差違を長からしめた。

ギリシヤの深遠な哲學も、科學もエヂプト小亞細亞からの思想の影響は多少あつたにもせよ、それを全くギリシヤ的のものに生んだ彼等又日本の如く孤立して居たのである。

星座も彼等にとつては單なる觀賞の道具ではなかつた。

その逞ましい想像力を馳せて天空に英雄の姿を星に畫いた彼等は又農耕の必要から航海の必要から、天文を一つの科學として仕舞つた。自然を吟唱し讚美した日本人が僅に三つ星、六つ星（スバル）を觀察したに過ぎぬ間に

日本人は歐洲人が智的であるのに較べて、遙かに情的であると云ふのは過りである。と長谷川如是閑氏は六月號知性で述べられて居たが、情的方面に於ける日本人の性格はものを『受け入れる』點に於てすぐれて居るのでないかと思はれる。感嘆して受け入れたものを『日大的』にして仕舞ふ能力は『作り出す』方迄より働き得なかつた。

日本は此れまでの戰爭『日淸』『日露』に於て『作り出す』動機は幾つも作つて居る。それが歐洲に於て『作られて』日本に入つて來た。精神的にも物質的にも。だが現在の日支事變は決して『受け入れた』ものでない。日露戰爭には露國の南下を防止する英國の企圖があつたが日支事變では日本が『作り出す』世界歷史に對する、英國の、露國の、そして世界の干涉である。

それは日本人が今迄作つたものゝ中で一番大きな仕事かも知れない。

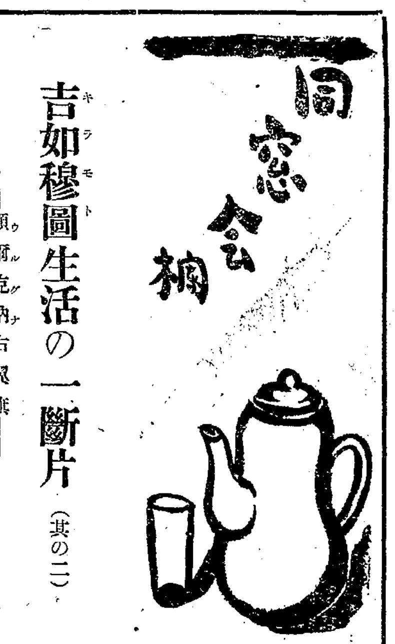
本年中は純毛品のみを
取扱ひます。
四宮洋服店
昭和六年度卒業
四宮一義
札幌市北一條西一丁目
電話四三八〇番
小樽へは毎日出向ひて居ります。
取急ぎ御用の方は電話2361番へ。

涼しい喫茶室
夏のお飲みもの代表品は
西村のアイスコーヒー
OTARU
NISHIMURA
〒2092番

新刊書籍雜誌
每日入荷
丸文書店
花園町第一大通り
電話三三八六番

紳士靴
學生靴
御子樣靴
の御用命は
靴とスキー
美喜屋
高桑滿（大正十五年卒）
小樽市花園町第二大通り

各種ライター
ケース陳列
煙草賣場
一階
各種演藝。音樂。
映畫前賣券發賣
プレイガイド



吉如穆圖生活の一斷片（其の二）

――額爾克納右翼旗――

竹内良和

少しく抽象的に流れた様なれば以下彼等が特異なる日常生活を一般に就いて述べて見やう。

彼等が日常生活は宗教と深く結び附き獨特の色彩を放つて居る。露人の家庭には必ず聖像が安置されてあり朝夕の禮拜は勿論勞働を始めるにも終るにも簡單なる儀式が行はれ食事の前後でも十字を切る事を忘れない。土曜日には「バーニャ」と稱する蒸風呂に浴し日曜日には晴衣を纏ひ克己週間には斷食し謝肉祭には飽食すると云ふ風に全てが信仰の告白であるのだ。純朴なそして享樂的な彼等ロシア農民から宗教生活を奪つたソヴエートは宗教撲滅をスローガンに彈壓に次ぐ彈壓を以てし會堂の打鐘禁止及び鐘の取外しが行はれ茲對岸ウスチ、ウローフの教會堂も哀れコルホーズの一倉庫として殘骸を横へて居る。

吉如穆圖露人が北國の澄渡つた碧空を突いて聳へる教會の尖塔宗教的感激を以て傳へる鐘の音莊重なる四重音の讃美歌と共に行はれる莊嚴なる禮拜式其處に充ちた一種の神秘的氣分に浸つて居る時對岸住民は此亦宗教的良心の呵責に鞭打たれて居る事であらう。

彼等露人の勞働は春の復活祭（パスハ）と共に始まる即ち受難週間も過ぎて冬の名殘跡方もなくアルグン河赤解氷に次ぐ流氷期に入り自然は若葉の緑に蘇へり人は皆春の希望に浮立つ時である。

復活祭はパスハと言つて一年を通じ最も大きな祭とされ一週間も續き人は皆勞働を休み歡喜と娛樂と遊興とに耽るのである。享樂的な彼等が單調なる農業生活に於て見出す唯一の慰安と娛樂とは日曜日の禮拜であり數多い祝祭日である。

彼等が如何に享樂的な民族であるかは其の祝祭日の多きを見ても領かれる、然し其の反面慘澹たる北國の自然の暴威と闘ひ克く耐へ忍んで苦痛を忍ぶの消極的勇氣に秀れて居る彼等は一度勞働に着手するや着實にして實際的な一面を發揮する。

彼等若い男女の集る處きつと「バラライカ」（樂器の一種）の音も朗かに無國籍の悲哀も打忘れ踊り狂ふ彼等を見出すのだ。

そして亦老人にも若人にも笑ひの花が咲き戯れの花が咲く無邪氣な此の歡樂の夕べは我等が日常生活をも明朗化し特異なるローカル、カラーを以て吉如穆圖を色取つて居る。

ロシア町としての色彩を濃くし而も北國の我等が日常生活に必要缺くべからざる存在として「ペーチカ」「バーニャ」「ウオーッカ」なるものがある。

戸外では凄じい吹雪の荒れ狂ふ北國の冬も極めて保温に適する「ペーチカ」に依つて六七十度の温度を保ち室内は合着で充分である。

北國の陰慘荒寥たる自然の暴威下に在つて氷を蹴る馬蹄の響雪に軋む橇の音勇ましい鈴の音は快よいリズムとなつて名曲「トロイカ」を髣髴せしめ燃えさかる「ペーチカ」を圍んで熱い紅茶か「ウオーッカ」を飲み作らロシア民謡に興じダンスに耽つて曉を知らぬロシア家庭の一景や吉如穆圖生活冬の一斷片ではあらう。

寒暑の差激しき大陸の自然に抗し日常生活を暖はすものに紅茶と「ウオーッカ」がある。ロシア人の最も好む飲料として餘りにも有名だ。

朝晝晩間斷無しに飲用する結果「サモワル」と云ふ獨特の湯沸器迄出來て居る程だ、彼等にとつて紅茶代りであらう「ウオーッカ」は麥から醸造した强度の火酒で宴會を始め客の歡待に廣く用ひられ寒國には無くてはならぬ代物であらう、亦時折店頭に現はれる日本酒やビールに代つて日系飲酒家を僅かに慰める一事を以てしても吉如穆圖生活から離す譯にはいかぬ。我等が生活に於て最も不便を感ずる風呂の一件も彼等が「バーニャ」と稱する蒸風呂に依つて無事解決して呉れる。

「バーニャ」の構造は比較的簡單でロシア家庭には附き物とされて居る。浴場の一隅に石を積み重ねて出來て居る暖爐があり下から焚きつける事に依つて灼熱する之等燒石に冷水若くは熱湯を注いで蒸氣を發散させる譯である。彼等はベンチの上に大の字型に横臥した儘濛々と立ち罩むる蒸氣の中に適當な時間發汗せしめ、うでたこの體をタオル代りに白樺の皮で摩擦したりしていた白楊の枝で叩いたりして垢を落す一方血液循環を促進する等實質的マッサージの効果さへ擧げて居る。

我等慣れない者には迚も一分と我慢は出來ない、漸く在住一年にして慣れたとは云ふものゝ浴槽や灌水浴の設置なきを幾度嘆いた事か、然し之れも過去の微笑ましき話題として忘れられてしまつた。

北國の冬籠りにも似た六七ケ月の寂寞たる生活も終つて此の吉如穆圖にも漸く春が訪れた様だ。銀白の平面鏡に喩ふる氷上とは凡そ似ても似つかぬ一面氷片の山を成して居つたアルグン河も此の四月二十日頃より解氷を開始し厚さ一米前後もあるであらうと思はれる氷河忽ち氷解流動する壯絶極まりなき一大絵巻圖を未だに描いて居つた我等が眼前には早自然の一大變動を卒へたアルグン河が水上交通始を瀰かれと督促して居るかの如く靜かに横はつて居る。野には種々の草花が咲き亂れ山は春の粧ひを凝らしあたり一面馥郁たる香氣を放つて北國の春を稱へて居るかの様だ。本年での初航船であらう一隻の帆船は吉如穆圖江岸に横着けられ明朝愈々當地を出發吉拉林へ向ふ事となつた時ならぬ便船にて今や我等國境の日本人は一様に故郷への便りに筆を運ばせて居る事であらう

一九三八年五月七日夜認

〝臺灣榮轉オンパレート〟

――中山庚子男――

臺灣實業界に其人ありと知られてゐた古河電氣の臺北支店長倉内平治郎先輩（第三回）が急に半島の首都京城支店長に榮轉すると言ふ快報と同時に臺灣銀行のホープ佐藤文四郎君（第二十回）が臺北本店より嘉義支店の要職に榮轉すると言ふニュースが四月八日時を同じふして幹事の耳に入つたので榮轉オンパレード祝賀兼送別會を早速同夜六時より開いたのである。

僻り緑丘同人の多からざる臺北支部としては、二人の榮轉は文字通りの打擊であり從つて集まるもの兩主賓を加へて僅か六名ではあるが、常連の顔は大部分揃へ得て、兩氏の爲めに大いに前途を祝福し杯を重ねたのであつた。

◎倉内平治郎（第三回）

中學時代既に臺灣發展を志し是を果さず緑丘卒業當時臺灣銀行にいち早く入社決定してゐたのを敢て之を友人に讓り古河に入社した氏が臺北支店開設と同時に拔擢されて來臺したと言ふのであるから、全く臺灣とは運命的に因縁を有してゐた譯である。

臺北生活十八年而も在任中責任者としての快腕を縱横に振ひ「古河の倉内」「倉内の古河」として名を唱はれ臺灣全島に古河の勢力をすつかり植え付けて仕舞つたのであるから偉いものである。

最近古河コンツエルンの臺灣進出愈々急で「輕銀」其他國策的產業緒に就かんとするの時京城榮轉は少し心殘りが無いでもあるまい。

倉内さんは實業界稀に見る方正家で一面道學者的風貌を有し筆者なんか全く敬服して居たものである。

◎内藤保廣氏（第七回）

氏は臺北高商教授、内池博士門下の逸足を以て名あり、高商では財政學社會政策經濟史を擔當してゐる。明晰透徹せる講義は學生の關心を集め全く臺北高商の中堅教授として活躍重きをなしてゐる。高商の機關紙「南方經濟」には常に共勞作を發表せられ最近内池博士還暦記念論文集にも「租稅に於ける生產性」なる下に堂々の論陣を張つてゐる。既に二年前歐洲留學を終へ、現政府の唱へる海外留學制限の厄に會はずに濟んでゐる幸運者でもある。

趣味のゴルフが利いた譯か最近迚も肥滿の度を加へ正に十九貫以上ありさうである。家庭は可愛いお孃さんばかり三人で坊ちやんの無いのは殘念である。

◎友森茂人氏（第十回）

氏は交通局鐵道部工務課の庶務係長さんである。眞面目謹嚴と言ふ文字は全く友森君の爲めに作られた言葉だと筆者なんか最近考へ出した程の人格者である。趣味はピンポンと言ふのであるから緑丘學寮生活時代の香りが漂つてゐて愉快である。されば工務課には堂々たるピンポン臺の設けがあつて退廳時間後の數時を自信の腕に快心のバウトを繰り廻してゐるのが友森さんである。一男二女の家では良きパパである事は申すまでもない。

◎中山庚子男氏（第十六回）

氏は臺北商業教諭。現在簿記會計を擔當してゐる。其著「商業簿記學の講義と問題の正しき解き方」は受驗準備用として好評らしく二年半で九版を窺り盡し「受驗と學生」なんかには相當なファンを持つてゐる様である。

内藤さんに見習つてお孃さん許り三人もつて少々參いでゐたが、最近漸やくヒットを出して長男を儲け俄然「一高」に仕様か「海兵」に仕様かなんて赤ちやんの黃疸が取れない中から甘い空想に耽り出したのであるからこわい。

臺北商業の水泳部を臺灣では無敵水泳王國に迄作り上げた事は買つてやらねばならぬだらう。

◎計良大助氏（第十七回）

氏は臺北市役所庶務課勤務今年誰にも知らさないで突然花嫁を迎へて圓滿極まる家庭を作つてしまつた。送別會の席上でも「計良君最近げつそり痩たれ」を周圍から浴びせかけられて嬉しさうな辯解に努めてゐた。何にしても計良君の様に人から冷かされる中が花ですぞ諸君！

和歌に於ては既に一家をなし大正昭和の全國歌人の傑作を集めたる新萬葉集の第三巻に

むづかしき仕事を一つ成し遂げて伸びし力を知るぞ嬉しき

が計良氏作として納められてゐる。愛妻を歌うて

わが妻の日記を讀めばこまごまとわれの暮しを記してありぬ

◎佐藤文四郎氏（第二十回）

主賓の一人たる佐藤君を末席にもつて來たのは誠に申譯ない次第であるが、卒業年次順に我慢して貰ふ事にする。

佐藤君は緑丘より商大に進まれ十一年商大卒業と同時に臺銀に入り臺銀の若手中でも最も將來を嘱望されてゐる一人である。

談論風發而も人をそらさない點は近頃の若い者には珍らしい位である。

それでゐて一本的態度を失はず商大に居殘つておれば必ず教授として名をなし得る人物だがと筆者を私かに嘆ぜしめてゐるのが佐藤君であるその上未だ獨身と言ふ好條件がさなきだに適齡期のお孃さん連の多い臺北では各方面よりの關心の的とならざるを得ない譯である。

惠まれてゐる佐藤君！我等のホープ佐藤君！

× × ×

以上當日出席者の外に臺北近邊には

◎細矢五郎氏（第三回）大阪商船基隆支店長代理堂々と洗練された重役タイプ（當日基隆なるが故通知もれがした事をお詫びする。）

◎北村良吉氏（第十二回）臺銀本店詰習て緑丘時代の庭球の名選手をもつて鳴つてゐた。

◎梅野彌太郎氏（第二十一回）臺灣銀行勤務。事變と共に召集され罹病されて陸軍病院に入院。

の諸氏が活躍されてゐるが此等の消息は後便にする。

紙面の都合上多少割愛しました乞御諒承（編者）

學術研究基金申込口數、同金額拂込額並ニ未收入額調

（昭和十三年七月十一日現在）

要項	申込口數	申込金額	拂込金額	未收入額	備考
前回報告	一、三三七　外三六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	申込人員八六二名
前回報告後拂込額			[illegible]		拂込者芳名並同金額ハ別項ノ通リ
累計	一、三三七　外三六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	申込人員八六二名

◎前回報告後拂込者芳名並ニ同金額

○母校教職員之部

一金壹百五圓也　菅米地會長以下教職員三十八名昭和十三年六月分御拂込額（内譯省略乞御許）

○一般會員之部（敬稱省略數字ハ御拂込回數）

一金五拾圓也　栗原寛6　青山瀧藏3　青木茂彌5（御拂込順以下同ジ）

一金貳拾五圓也　本間房二7

一金貳拾圓也　松本義一5　相澤豊太郎5

一金拾五圓也

一金拾圓也

一金五圓也

一金參圓也

一金貳圓也

一金壹圓也

松林敏6　寺尾八郎4　長野醇三3　岡本恩康29　宮尾藤之輔4　渡邊金吉5　田中正一6　能勢博史2　石原直衛4　成井三次4　安達讓2　中村昇3　廣島新一5　島方喜久雄5　井上保5　廣島一男3　菅孝夫5　湯上庶之助7　角田治作4　篠田正男4　後藤喜久雄4　河野通雄4　上田文雄4　星野新八7　藤本歲久3　木村徹郎7　安達徹郎6　長井一榮6　小納外一5　吉田茂平3　長谷川光俊6　内山正七5　相澤正美4　金森憲一1　鈴木滿5　中村好治郎5　佐々木大助7　間室守親2　眞藤義夫3　宮崎松吉7　板垣元久3　辻嘉三太2　坪谷浩一5　鈴木義雄23　加藤朝雄23　三浦茂太郎34

藤田進5　渡邊周2　淳野亨2　高橋宇三丸3　杉本繁4　小川昌4　藤田幸三6　眞保市四郎4　山口保榮3　今井治男3　渡邊榮一2　上坂一3　福島正民6　白山友正5　中村仲吉5　島田義治7　中上仁三郎5　宗像雄一6　飯野陸雄1　野島廣一5　帖佐猛5　小武海鐵郎5　佐藤榮治5　石井辰良2　岡田拾次郎1　安宅文雄6　松山圭彦6　金井浦三5　吉岡新三3　中野新八郎5　三浦寛3　土岐賴章4　桑野秀治3　竹田久作4　東口環4　原貞雄6　森美之助2　井本二郎7　櫻田總之丞6　坂井照3　藤田善之助20　加藤秀一36　范喜久二36

山崎吉郎5　太田省三3　杉江重治6　神澤忠彦2　久米直3　奥田保造3　雨宮尙造3　坂本修3　林准治3　小川長太郎4　村川一義3　四宮政治2　高木節治7　金澤松太郎4　風間5　櫻尾三郎3　永田利三3　中村拾6　佐竹佐武郎1　山本榮次3　宮澤秋雄4　梅原剛湯6　大川原秀雄4　石川三1　比良吉次6　直島一郎6　徳中敬之4　多田三郎5　中尾晃5　加地功6　鈴木一雄6　宮袋虎雄5　佐々木綱一5　新山學6　小林重雄5　澤田格郎3.5　新納時成3　吉岡義二5　宮崎勝次郎5　原泰助4　古川敬之2　稻垣芳雄36　横田弘之29

以上學術研究助成基金拂込額調

◎前回報告後拂込ヲ受ケルコト次ノ如シ（敬稱省略）

○卒業生之部（數字ハ拂込相當回數）

一金拾五圓也　森川正明3.2-4　小林憲4　吉田秀策4　栗林忠平4　丸山一郎3　新國佐4　山田徹3　森尾正七4　伊藤元雄2　進藤元彰1

一金拾圓也　吉澤正雄4　稻場友吉2　三浦通三2　大杉定治2　畑田正清4　大部次郎3　諸留誠3　二木正敏2

一金五圓也　富岡正四郎2　池野龍雄1　江口武雄4　下斗米安藏2　久松登一4　藤川精三1　中島二郎2　三野六郎2（御拂込順）

○在校生之部

一金拾圓也　西川賢太郎

別ニ金拾圓也ヲ中途退學者ニ拂戻シ拂込總額金壹萬五千九百貳拾圓也トナリマシタ

以上

高商一五會例會開催

◇六月二十五日午後六時より札幌の中島公園西の宮支店に於て大正十五年組の例會を開催した。席上入江さん中野さんなどより此の會の名前をどう決し様といふ事で各々智慧をしぼつたがとりあへず小樽高商一五會としておくことゝし、會則めいたものもつくり、毎月會費なども集める様にしたいといふ希望が出て、參會者一同は之を諒承した。卒業以來隨分久しくなつた今では之で組織だつて全國の同級會員にも呼びかける事の出來る段取になつて來た事は喜ばしい次第である。

◇此の前はまだ名殘りの雪がある頃に誕生第一回の集會をやつたのであつたが札幌側の諸君の一絲亂れぬ統制の下に第二回の此の會がいとも盛大に行はれたことも喜ばしい事の一つであつた。

◇皆愉快に飲み且つ語り此の間札幌美形連の酒間斡旋するあり鈴木品川兩君の手並も鮮かな記念撮影もあり大滿悅の裡に散會したのは九時を過ぐる頃であつた。

◇今回は札幌の朽木君と小樽からは太田君が參加されて一層賑やかな事であつた。當夜の出席者は札幌側入江、中野、朽木、鈴木、荒森、小樽側早川、酒井、石川、品川、細島、丹下、太田、高桑、森の十四名であつた。

會費領收

終身會費

一金五拾圓也　須永誠一

一金五拾圓也　大島三郎

十、十一、十二年度

一金拾五圓也　中島昭一

昭和十二年度

一金五圓也

笠敏壽　田島正太郎　鈴木
遠造　梅川正夫　三野六郎
內田岩市　寺田時一　立川
與一　安藤升　駒井幸一
宗山宗行　手島恒二郎　井
口宏　佐藤一郎　米澤四郎　中
櫻井孝平　奥野茂義　村
實　佐藤重次郎　荒英夫　彥
茶谷豐彥　篠村貞雄　塚本
政義　吉川友記　塚田次
上村甚四郎　岩垂裕　櫻庭
幸雄　戸井正三　篠原義郎
橫澤魁　後藤榮一郎　廣川
利兵衞　中山尙人　源美政
次　下斗米安藏　白土芳文
榊原顯治　相川儀一郎　三島
計二　川崎勝巳　中田左內
松井保　内藤曹丸　森本
秀男　入江森雄　原島義美
牧野吉男　船越好文　伊藤
憲爾　石木芳雄　中島平吉
奥山英一郎　兼元正三　坂本武臣
川正男　石澤勇　山口
田中三郎　太田末穂　大場賀
重義　佐々木謙吾　柏原富
太郎　原村森之助　牧野六郎
一　永藤四郎　牧野正治
平井勇　佐藤司　大井
小澤信尙　岡部四郎　安野盛賢
義郎　田中繁良　山內助
伊吹健治　藤本喬　山內正三
三郎　松本廸夫　近藤
鈴木賢吉　三浦丈夫　和田佐一郎
操　比良直治　廣島進
梅澤保治　上家富誠　木藤名
四谷亮　泉谷久　宮崎齊之
常次郎　武內武一　小泉
壽成　奥村慎吾　藤本
菊池正信　岡田榮吉　梅野彌太
哲太郎　三井田清彌　小倉美佐雄
歳久　木島忠男　石川
郎　竹內長和　高橋孝三
坂井直人　高橋一男　新井清保
秀雄　水原謙藏　田浦
郎　鎌田政隆　山崎吉郎
山家利典　宮崎齊之
松盛　石田熊市

昭和十二、十三年度

一金拾圓也　神寬藏

昭和十三年度

一金五圓也

菅村博　越崎宗一　櫻庭亥
一郎　村井彌三郎　野又貞
夫　松川一馬　島義治
彌太郎　中村仲吉　佐藤
鏺谷芳夫　廣瀨久一　水野憲谷
純一郎　前田重郎　森松定
男大川原雄三　佐々木利七
中野一郎　高橋弘　白石光德
吉澤正雄　岩本正　村田
助　一齋藤作太郎　池田次郎
細谷遠太郎　盛田稷　坂井
欽一　小關勇　太田省三
木村慶七　松岡俊一　井上
節男　讚岐梅二　關與三郎
奥山昌次　夏村三郎　土肥
有嗣　高松勳　原九郎
西尾清一　杉江猛　中村拾
小林榮一　高桑滿　多川三郎
大橋輝雄　石塚勝太　早川
昌三　渭上鹿之助　平尾忠
一　野島廣一　野坂利太郎
松山進一　井上開太郎　遠
藤貞藏　澁川光太郎　大場
忠久　宮袋虎雄　熊谷光雄
小田八十治　安在七郎　豊
田武　高野治作　村山武之助
東政治郎　常岡亮　內藤吉
太郎　本間武夫　本間孝之助
山本繁雄　山本信卿　梅木功
佐藤益衞　仲谷梅松　日下
一郎　笠木中一　山崎政市
荒木田敏郎　渡會卅　山恭造

邊文郎　寺尾八郎　酒井勇
澤井正二　小野清吾　野口
誠一郎　中川健三　三浦俊雄
宮澤秋雄　細山寬　長谷川
光俊　野口正二郎　川島道雄
高山貞一　坂口茂　大島清
中村胤一　神野貞三　本間誠一
米田實　新保芳夫　齋藤麗吾
進分務　廉岡重厚　平野勉
原田四郎　渡邊正則　田代
柄澤六郎　伊藤光男　藤田
良一　松本義一　工藤正美
阿部謙平　渡部季男　堀岡
榮一　姬野亨　宮尾藤之輔
大熊康吉　原田修治　小野
久吉　横山一郎　五味與一
花輪啓一　中村光治　品川
作男　濱谷勝次郎　廳谷修
四郎　山田勇　赤岡正夫
宮北治平　藤田幸三　加藤
希八郎　北村芳男　尾崎一朗
岡田與一　秋岡勇　岡本忠一
谷口久雄　小森榮一　中本
武夫　橋場友吉　金森猛司
丸山一郎　富岡正四郎　吉
田秀策　阿部隆　樋口健三
三浦浩一　馬場正治　宮本
田谷清　宗像雄二　秋
錦一　幹汪　杉崎綠　立野與四雄
田中泰三　藤尾勘之助　風
間松太郎　湖島二郎　竹田
正一　瀧田鐵一　池浦清
轂掛駿郎　清水泰雄　辻清七
福島正民　池主隆治　小納
外一　北川正二郎　伊勢田
美三郎　高木政治　種田憲三
多田與八　原貞雄　堀口光夫
竹井秀行　金子全一　中村昇
安達泰二　黒崎一憲　横山
克巳　寺田茂巳　鄕潔　西
岡安一郎　金子全一　大部
次郎　進藤彰　武內守次
刀野清輝　渡邊瀧藏　江田
三喜男　本間房平　小瀧久友
川越泰一　加藤典德　小柳
重雄　丸山傳治　水落貞一郎
仲陸平　納富昌幸　小谷榮
五郎　小國敏郎　才岡俊一郎
進藤富夫　白土泰久　山本一
米光德藏　加藤專吉　大島
英二　井上俊彥　間室守親
渡邊定雄　中村新八　高田茂
安村靖彥　沖田貢之介　山
口義亮　雨谷茂民　廣田鐵
棚橋省吾　田中榮次郎　賴
橋周吾　栗野幸藏　飯野陸雄
小柴謙吉　宮地隆義　佐々
木孝之助　石黒保明　加藤
正幸　成田義雄　山中晴雄
鎌田俊藏　寺島元太郎　田
中源三　木下三郎　島井行雄
藤倉忠吉　藤川周也　兒玉
一彥　河場新次　山本芳太郎
金井浦三　大本長一　久米
忠彥　小野源三　工藤康治郎
黒澤功　齋藤誠夫　山崎英夫
栗野俊助　橋本正雄　松本
浩三郎　中村統一　新谷正幸
和田久雄　阿部光義　羽鳥
忠二　鹿島田清吾　村田謙也
森田清　松澤三郎　中村勝繁
太田正雄　齋藤正紀　佐藤勇
齋藤幸彥　佐々木勇二　田
井芳太郎　刀禰純輔　若山
永太郎　山脇正晴　建元進
星野新八　山田武　廣瀨久也
飯野英一　羽賀善藏　阿部
泰作　黒川廣治　堀池善彌
蓮田勉　島崎伊兵衞　古宮
長治　金生與市　山田稔
牧野貢　田中憲一郎　岩月
三郎　赤坂次男　佐野廣一
小武海鐵郎　金井研一　松
本角之丞　宮崎俊雄　清水
多助　田邊浩　岡藤正彥
服部良男　田中玄　石川榮吾
石井清文　坂野茂三郎　田
村宏平　武川彰　今井德彌
伊藤定次郎　永井靜男　木
村徹郎　桑原幸雄　能澤正義
須藤幸一　鈴木德　和知英昌
徐田敬市　湊二郎　長谷川
正治　遠藤勘重　土屋孝雄
坂元精一郎　近藤弘平　宮
山從道　高田正明　小宮敏郎
薄井晴次　宮崎善夫　齋藤彰
新美德次　五十嵐升　白石
塚二　大谷廣雄　金子勝三郎
福田勇一郎　栂健　川岸巳
代治　新山學　熊谷康三
黒谷滿郎　淺野諒　江口武雄
藤田熊　畑田正清　齋藤豐
中島二郎　新國佐　新谷健夫
二又秀雄　森川正明　野崎
龍夫　寺川八郎兵衞　江川
利三郎　石垣次郎　木下彌
治衞　金井武　木幡濟市
和田曾四郎　前山龍　大瀧
荻之助　城川健一　清水辰男
齋藤大輔　永義　田口俊夫

津山一彌　上村勇二郎　渡
邊治雄　森武　多田十四郎
船越勝太郎　田中藤一　小
市川靜夫　小杉哲造　小森
治樹　深津理　河西武德
南義顯　四谷宗義　秋山朔雄
波多野滿　土岐賴章　小杉
富太郎　久保榮吉　牧猛美
田中修吾　梅原剛陽　三浦榮
中野虎之助　小田文男　生
方一郎　渡邊三郎　米津正一
小宮甚右工門　石田平八
近藤巳芳　今井四郎　狩野清
佐藤米二郎　石井正男　水
上源太郎　善如寺武夫　野
口勤　八家要　林敏郎　田
中瀧一　藤谷忠雄　三好正
治郎　澁谷一郎　菅原甚吉
風敏夫　大平正彥　紫竹距
津視　上野茂　大村良雄
寺坂嘉兵衞　八尾勝郎　平
木勇三　井上尙　小柳紳一
三橋三郎　水江純一　大瀧
正八　信田英吉　田中新之助
戸谷達三　和田益太郎　中
里政司　高岡定藏　秋山富義
雨宮保造　大島祭次郎　安
田吉助　堀田卷藏　長雄博
古關周藏　加藤戒三　菊池
塚郎　中上仁三郎　小林周作
川越敏郎　岡本政治郎　阿
部豊作　諸留誠　可知文三
黒後鶴雄　和田順三　太田
太平　中尾晃　坪井敬　白
木小一郎　新納時成　松ヶ
野齋夫　宮田幸三郎　堀口
重吉　柳澤孝　關根正一郎
鈴木重男　五十嵐長一　塚本正
村善雄　田文雄　寺山朝　川
糸魚川佐郎　藤稻川　長山
三郎　小林重雄　直孝
村山重三郎　只野裕一　稻川
小間賢治　山田徹　山崎俊
次郎　菅原藏　三俣芳夫
川上久辰　小林三郎　牧野
榮二　渡邊榮　久末憲治
田崎勝次郎　井上巖　長野
醇三　加藤保英　神澤重治
王田穣　金垣英雄　小林利光
藤田利雄　百川孝平　內藤
万壽夫　飯村貞一　村川長
太郎　關野正衞　井上重太郎
守野幸夫　畝本勇　杉原一男
西谷作太郎　喜多村久盛　山
田中義英　大原國廣　佐野
定繼　今野貞次郎　佐野治二
伊達盛二　水梨正太郎　加賀保
山隆吉　山崎正孝　加賀保廣
神本武夫　清水恭成　小川
越前靖一　新妻壬子夫　加藤秋治
村昌雄　鹽田守正　岩井正一
伊賀武雄　大石季雄　小島
典春　中山慶　大味新三
富田保司　森正夫　小田乾三
永山恒　東口環　金野榮吉
小松格　石井武　栗原寬
森田謙三郎　杉江政雄　小原守善
色市次郎　奥田勳　君島與
武雄　小林精一　西內
德川軍六　保科彌正　三辻勝利
武雄　大塚誠四郎　森下道英　大
村協　小川良助　吉田莊太郎
鈴木三七　若林繁雄　杉山
秀雄　大久保久雄　長谷川
遊郎　三好秀市　遠藤小二郎
仲谷半三郎　計良大介
田武雄　狩井得三　平野彌三郎
狩田昇之助　中澤正五　宮脇晉夾
歷孜次　坂元正雄　村上武夫
杉本繁　若林丈夫　大久保
竹內敏　佐藤文四郎　花野晴治
鹿野平治郎　山本外治
間秀藏　野界作成　深田省三
竹內英三　田村秀造　山本
富瀨　塚越誠　田中正三
具沼佐平治　石井貞　高橋幸義
寺和一　萩尾英彥　高橋幸正
飯川益男　成井三次　藤本
雅齋　小松榮治　菅野新治
小倉芳勝　小峰彰　白鳥
畑山昌治郎　松信義夫　吉
田茂平　濱井清一　中條市郎
內山文吾　松浦正雄　佐々保
久松登一　狩富義式　橫本
英雄　佐藤六郎　中村博
兒島良宏　淺野輝彥　岡崎弘
星野治　藤城敏雄　高橋義武
鈴木午之助　岸本秀男　北
島章　宮地邦介　大森昌行
手塚保次　中瀨秀一　上田
藤一郎　大島重男　富川虎雄
池田友義　金子俊雄　江口
行雄　金子喜義　岩岡秀三
能代鐵雄　奥井康夫　深木
源治郎　隱谷精一郎　上野
英三　坂口榮之助　利部七郎
生駒政雄　毛利龍三　西村保

二瓶正男　大熊治　小野文質
瀨川耕作　坂井照　丹羽正男
井上覺治　種田與次郎　河
野通雄　橋井典雄　織田淑夫
熊谷林作　松岡卯之典　小
橋浦三　高瀬源吉　菅農義夫
豐田和夫　大島有一　郎
塚寛二　荒川虎次郎　日比
一良　高野憲一郎　木村惇
高橋吉郎　三森龍次　田中
康夫　高橋正敬　宮崎正雄
吉田顯　梅原秀　前田忠治
高橋政夫　工藤武雄

一昭和十四年度分

一金五圓　竹田正直

訃報

竹森次郎君（大七）ハ昭和十三年五月二十日

工藤武雄君（昭九）ハ同　十三年六月二十二日

布川貞君（昭一一）ハ同十三年六月二十七日

逝去セラレ誠ニ痛惜ニ堪エス

本會ハ弔辭及香花料ヲ贈リ哀悼ノ意ヲ表シタリ

[illegible]

倉内平治郎	大3	勤先 住所	京城府南大門通五丁目一古河電氣工業株式會社 京城府寄藥町二丁目一，四
小平小太郎	大5	勤先	東京市日本橋區室町三井銀行本店
杉本寛一	大7	勤先 住所	北海道苫小牧町王子製紙會社苫小牧工場 北海道苫小牧町王子製紙會社社宅
永山恒	大8	住所	神戸市林田區片山町二丁目一一
田中唯重	大12	勤先 住所	長崎縣廳務課長 長崎市櫻馬場町四三
梅澤保治	大12	勤先 住所	宇都宮市今泉町栃木縣立宇都宮商業學校 宇都宮市河原町一一〇二
宮尾藤之輔	大13	勤先	小樽市北濱町二丁目四集鱗冷藏庫株式會社
香川清夫	大13	勤先	神戸市立松野實業學校
佐藤重次郎	大15	勤先	岩手縣膽澤郡佐倉河村縣立水澤農學校
中野新八郎	昭2	勤先	東京市小石川區大塚上町住友銀行大塚支店
太田英治	昭2	勤先 住所	上海四川路一八五號三井物産株式會社上海支店 上海北四川路一〇八一號
高橋政夫	昭3	勤先	東京市日本橋區堀留町二丁目第一銀行堀留支店
後藤秀雄	昭4	勤先	奉天浪速通二六大阪府立貿易館奉天分館
杉山力	昭4	勤先	新京特別市大同大街二一三號東京火災保險株式會社新京支店
土田義雄	昭4	住所	新京特別市興安大路三二六號
東郷重雄	昭4	勤先	夕張郡角田村北門銀行栗山出張所 東京市丸ノ内三丁目北門銀行東京支店
森稻造	昭6	勤先 住所	國務院總務廳企畫處 新京特別市惠民路政府第一代用官舍十六號
山尾温吉	昭7	勤先 住所	小樽市稻穂町東六丁目四㊂野口商店 小樽市花園町東三丁目二五
山内雅一	昭7	勤先 住所	廣島市宇品町廣島商船組内北日本汽船株式會社宇品在員 廣島市大手町九丁目五四
永井太郎	昭8	住所	小樽市住ノ江町九ノ六
佐藤文四郎	昭8	勤先	臺灣嘉義市臺灣銀行嘉義支店
森隆郎	昭8	勤先 住所	基隆市近海郵船株式會社基隆支店 基隆市壽町三丁目一五
山本正直	昭9	勤先 住所	濟南市滿鐵濟南鐵道事務所工務班 濟南市三大馬路緯七路西朝日アパート
大村博	昭9	勤先	佐賀市外高木瀬村特殊織維工業株式會社佐賀工場
山岸次郎	昭9	勤先 住所	天津法國租界中街新華大樓淺野セメント株式會社天津營業所 天津日本租界松島街一二芝園館內
林重直	昭10	住所	大阪市住吉區昭和町中央四丁目一澁谷儀一方
阿部武道	昭10	勤先	大阪帝國大學理學部內統計研究室
兒島長宏	昭10	住所	京都市左京區岡崎北御所町五一
安達常夫	昭10	住所	北見國斜里郡小清水市街
岡田	昭10	勤先	神戸市榮町四丁目小幡商店
立石市郎	[redacted]	[redacted]	[redacted]
坂田富男	[redacted]	[redacted]	[redacted]
渡邊瀧藏	昭12	勤先	手稻村三菱鑛業手稻鑛山事務所會計係
有井洋	昭13	勤先	北海道余市町住友余市鑛山
白土泰久	昭13	勤先 住所	東京市丸ノ内扶桑海上火災保險株式會社火災部 東京市本鄉區元町一ノ九石崎たか方
馬場正治	昭13	在學 住所	慶應義塾大學 東京市中野區川添町二一牛田方
伊藤忠康	昭13	住所	東京市世田谷區玉川奥澤町三ノ九九八館崎方
納富昌幸	昭13	勤先	室蘭市東町三九〇日本製鐵株式會社室蘭工場
若林繁雄	昭13	勤先	札幌市北一條西四丁目第一徵兵ビル日本ビクター蓄音器株式會社札幌營業所
南亮三郎			小樽市最上町九

小樽・今井

高商共濟部

道產土產　北斗星（りんご砂糖漬）
道產土產　バター羊羹
小樽土產　小樽名所集

小樽市緑町二ノ二六

吾利久菓子店

電話三七六二番

最新式

カールツアイス

レンズメーター設備

正確なメガネの　水晶堂

珈琲苑

ジョッキーに泡立つ
コールドコーヒーの涼味

妙見向時
珈琲苑

古本はフミヤ!!

御不用書籍高價買入

文屋書店

花園町第二大通り